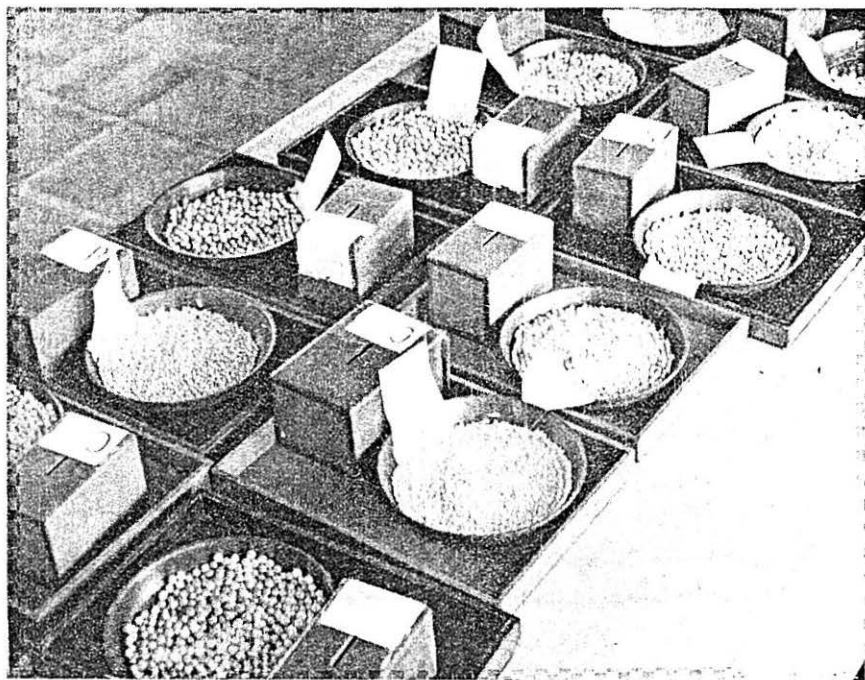


會 報

才 四 卷 才 五 号

通 卷 24 号

(Aug. 1959)



真 珠 研 究 会 伊 勢 部 会

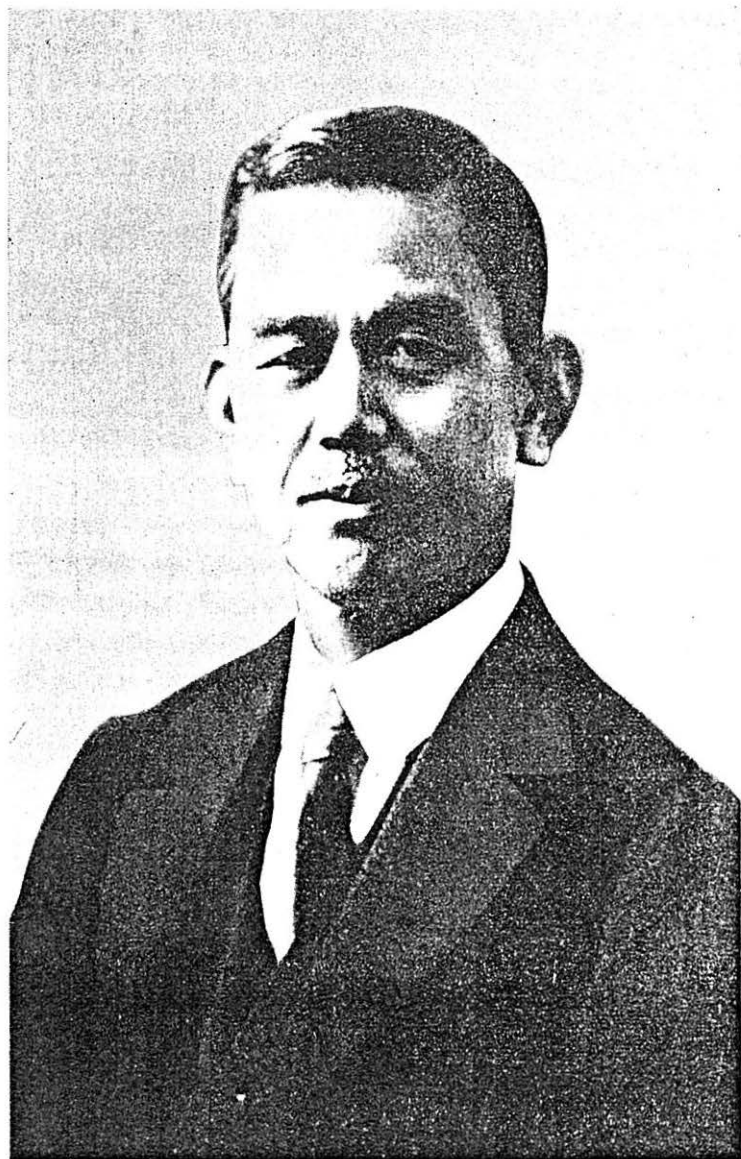
目 次

	功勞者紹介 (7) 藤田輔世氏……………	
1	最近の真珠業界の動向と今後の対策…山 本 勝……	1
2	卵抜き之母貝状態による 入核直後の斃死率について…大須賀正二……	17
3	ビースの摩擦が真珠の 品質に及ぼす影響…蓮尾真澄……	24
	御 検 査……………	
	横 瀬 寛 ……	28
	パロツク サヨナラー寛ちやん……………	山本文栄……29
	資 料	
	研究所めぐり (4) 三重県水産試験場の巻……………	23
	昭和34年度海況注意予報 (1) 夏季斃死の予防について……………	26
	新着図書紹介……………	38
会 報	……………	40
雑 報	……………	42

表紙写真は、全国真珠入札会出品真珠

(Canon VT 1,2 白井)

藤田 輔 世 氏



藤田輔世氏の業績

藤田輔世 (Mr. Sukeyo Fujita) 氏は明治11年 (1878年) 12月15日、千葉県に於いて藤田九萬の次男として生れた。

父、藤田九萬氏は明治11年8月に郡区町村編制法のなつたばかりの印幡、殖生、南相馬三郡の郡長であつた。

輔世氏は青山学院、仙台二高を経て明治38年7月東京帝国大学理学部を卒業し、同11月助手に任命され動物学教室に勤務されたが、明治41年理学部嘱託となり、神奈川県三崎の東大臨海実験所に専属され、専ら西川藤吉氏の発明にかゝる真円真珠形成法の養殖実験に当り、翌42年西川氏の没後も尙予算の許す限り試験を継続されたが、同45年以後中止の形となつた。

大正2年大型の真珠を得るには大型の母貝を必要とすると痛感して、同年10月南洋方面へ視察旅行に出られ、同5年フィリピンのゼンボンガに行きサンタクロス島に研究所を設置して大型真円真珠の養殖実験に着手された。

大正7年、大学の職を辞し南方に於いて実験に専念される事になり、同9年には実験所を当時蘭領東印度諸島のマカツサルブのブートンに移し本格的な養殖を開始された。

大正12年三菱の後援を得て準備が充分整い、同14年4月に始めて若干の製品を持ち帰り、更に昭和2年10月にはシロチョウガイによる大粒の真珠多数を持ち帰られた。

昭和5年12月欧米の真珠の状況と学術関係の調査に出発されたが、途中アメリカを経てより病を得てフランスより帰国されたが、終に翌昭和6年10月31日、病没された。享年52才。

藤田輔世氏の功績は上記の如く南洋産の大型真珠貝を用いた大珠の養殖完成が何といつても一番大きく他に見られないものでありますが、東大三崎時代に真珠発明三先覚の一人として著名な西川藤吉氏の理論を實際に養殖し、実物にして証明付けた事は世に知られない特筆すべき業績であり、又母貝を始めて陸路による遠方輸送に成功された事と、アコヤガイの中層吊養殖法の完成は多くの実験の中で特に好結果を取められたものであります。

上文は藤田昌世氏の提出資料による。(文責白井)

最近の真珠業界の動向と今後の対策



山本 健

(真珠市価安定対策委員長)

暑い折から大変熱心に御来場下さいまして有難う御座います。この研究会も回を重ね皆さんが自分達の仕事について将来の為に研究している事に対して、私達藤牟から非常に喜んでいる次第です。

今日は皆様にお会いして、この研究会とはいさゝか趣を異にするかも知れませんが、むしろ私の方から皆様と、とくと御相談申し上げ、或いはお互が討論し合つて将来業界をどういう方向に持つて行かねばならないかという事を、端的に皆様の御意見も承る積りでおりますが、多少今日は長くなつて、あとの実際の研究の講師の方々に御迷惑をかけるかも知れませんが、御辛辱して聞いて頂きたいと思ひます。これは皆さんに課せられた共同の問題でありますからお宅へ帰られたら経営者の方も又従業員の方もその点よくお互が話し合つて将来の真珠を如何に持つて行くかという責任を個人に於いて認識し合ひ、その事によつて団体的な行動を起こす、という考え方で私の業界に於ける雑感と申しますか切実なテーマに入つて行く積りでおりますが、一応最近の業界の動向という事について申し上げまして最後の結びとしてどういふ様にして業界を進めるかという事について緊急の課題を共に研究して行きたいと思ひます。

私が皆様特に懇談したい事は現在の真珠界の動向に於いて皆様のこの秋に上がつて来る真珠の価値の事でありませう。この真珠がどういふ様に皆様から我々が入手してこれを對外的に輸出するか。従来物の考え方となく本年は特に覚悟してかゝつて頂かないと恐らくこの2,600軒の業者の過半数は日ならずして崩壊するという重大な時であると思ひます。此処に全国漁協という立派な組織が生れて買取をやるといふ、現在の皆様一番所を得た組織であります。

だがこゝ数年やつて来た結果がどうであるかと振り返つてみますと必ずしも満足した結果は現れていないのです。何故その様な事になるかという事は業者自体の心構えにあると思ひます。

※ 8月研究会講演録音 1959年8月17日

端的に申しますと一つの組織を利用するという事は勿論利用する為の組織でありますがその利用の観点が間違っている。此処に大きな原因があると思います。何故なれば昨年の例を見ましても漁協に於いて真珠が一つの価値づけられた値段で集荷する。そうするとその値段を基準に尚上に売ろうという努力が絶えない。だから結局無定見な販売を外でやっています。必然的に此処で集荷されたものは宙に浮きこの分は誰かゞ何とかして呉れるだろうという他力的な考えが業界にある限りは組合がいつも棚上げの様な状態になります。

要するに組織を十二分に認識しないで利用しているのです。これが大きな問題であろうと思います。昨年に於いても少くとも13億程の集荷をして入札会で普通の販売をして売つたものは僅かにその場であり、あとは政策売をやっております。この残つた真珠が今問題になつているものであります。これは決して漁協の幹部なり、リーダーの人の罪ではありません。よつて来る所は皆様の思想の統一が不足している事にあると思います。少くとも自主的に自分達が仕事を起して自主的に納めねばならないのが我々の使命であります。この事を一人一人が認識して各自の声が集結してこれが塊となつて業界に反映すれば決して組合をある意味に於いての悪用という様な結果にならずに済んだと思います。又是是非とも本年からは過去の様な状態であつてはいけないという事を申し上げたいのであります。何故なれば本年、若し組合が昨年の様な集荷をやつて10余億というものが売れなくて滞荷したとすると大変な事になります。この責任は結局幹部丈の責任でなく2,600人全部の責任になるのです。何故なるかと申しますと自分の所は非会員であるから端的な損失も免れると考える事は大きな間違いであります。組合の動向が世界を半耳するという事になれば組合とは縁も山もない自分自身単独でやっている方にもやがてその責が来ます。真珠そのものが値下りして原価計算が成り立ちません。やがてはその仕事を放棄しなくてはならないという事がすぐに来ると思います。だから本年は組合員、非組合員に拘らず皆様の確固たる思想の統一が必要だと思ひます。

この様な事が云える訳ですが、成る程終戦後の事を見えますと真珠そのものが非常な勢で増加しています。そして或の意味に於いて他の産業より容易な産業であるので比較的恵まれて来ました。此処に問題があると思います。この先何んとかなるだろうという考え方では経営は既に困難な時代に入つてしまつて絶体に許されません。恐らくそういう様な自分が10万やつている時、値が安くなつたら20万やつて原価を安くして何んとか注褻が合つて借金が返せるという甘い考えでこの仕事に携つている方は非常に不幸な立場に数年経たずして落ちる……恐らく来年位にはなるという様な瀬戸際に此の業界は来ていると思

います。

輸出面から見ると非常に好調であります。昨年は9,600貫出ています。勿論これは政府の会計年度であつて昨年の4月1日から本年の3月31日迄ですが、一昨年は7,300貫出ています。量的には非常にスムーズな伸びをしています。1年間に3割以上増加しており、金額的に見ると一昨年は平均単価2ドル30セント(820円)位で売られておりますから7,000貫売れた時は約57億から58億売られています。本年は大体2ドルを5セント程下まわり700円から720円位の平均値でありますから9,600貫出て67億輸出されています。品物に於いて3割伸び、金額に於いては約1割5分位の伸びであります。品物が沢山出れば必然的に値も安くなるという事は、当然ですが、それ以上に品質の低下という事が決定的な要素を為しているのです。何故なれば輸出組合に於いて毎年500貫の品物をカットしています。これは一昨年からですが要するに輸出不適格品として廃棄しています。

ですから成る意味に於いて真珠の平均輸出単価は上がらねばならないのに1割5分からの値下りをしているのが現状であります。しからば現在の国内の滞荷がその後どうなつているかという事を種々考えてみますと3月末以後の業界の滞荷の状態は組合丈で約11億位の真珠がありました。このサイズを見ると11億の中9億が5ミリ、6ミリでありました。この様な関係で非常に微力ではありますが市価対策委員長をやつております関係から主だつた業者の方に少くともこの中の5億3千万円程を買つて頂き、あとの真珠を入札会で処分する積りでございました。大体1回に5千万円づつ売つて8月、9月と売つても5ミリ、6ミリを主体にした真珠が3億5千万円程が滞荷になると思います。

現在皆様が浜揚げしている5ミリ、6ミリの値はどうか。成る程薄く珠としての価値が無いにしても養殖業者の申し出る単価が既に6ミリに於いて280円から300円、5ミリでは180円から220円位であります。6ミリは別として5ミリが丁度夏場に300円前後で販売してございました。こういう事をうかがいますと今年は6ミリの値が非常に下がり少くとも昨年の半値になると思います。そうなると本年皆様から集めたデータの集計表を見ると大体総貫数が11,400貫位であります。その中の6割が5ミリと6ミリであります。5ミリが約3,000貫、6ミリが4,000貫揚がります。少くとも約6,700貫余りというものが5ミリと6ミリによつて占められています。しからばこの5ミリ、6ミリの仕事をしている人はどういふ人々かと申しますと殆んど大部分が中以下の業者であります。そうなるとこの真珠が5ミリでさえも昨年は値も200円を割つておりまして、これは原価計算から見ると如何に家族的給料を支払わないでやつていても原価よりもはる

かに安い値で売つていると思います。6ミリを若し300円前後で売るとすればこれとても原価をとる事はおぼつかないだろうと私は思います。これを放置して組合が買付ける値をある程度對外的に信用ある値をもつてしても種々の皆様の都合で組合に集る真珠は均しか集らないでしょう。外でパイヤーなり、加工業者、或いはブローカー、三國人等に300円を割つて売る様な事になつたらどうなりますか。完全に真珠界の没落が来ると思います。幸い大きい業者は限られたものですが6ミリ以上のサイズをやつております。この方々の本年やつている真珠のサイズは決して安くなりません。しかし主体を為す2,600軒の少くとも2,200軒は6ミリが主だと断言して良いのではないかと思います。今年の値が昨年半分の半になつたら皆さんの企業は成り立ちません。折角3月以後皆様が操短をやつてもこの結果は来年になる訳であります、この結果を見ずして自分から仕事を止める様な結果になる重大な問題が来月に迫つております。

どうすればよいかという事は共によく研究しそして一つの結論を皆様の仲間でもつて生み出して貰う以外にないのであります。何故なれば私達輸出業者は安く買つて安く売れば良いのでありまして決して困りません。只自分のスムーズな機動力さえあれば損は無いのであります。問題は皆様の生産過剰によつて起きて来る結果が余りにも悲惨な帰結を皆様に負わすという事を憂える為、しからばどうすれば良いかという事を少くともこゝ一ヶ月以内に皆様の結論を以つて業界に臨みたいと私は皆さんに叫び度いのであります。私の意見はどうかと申しますと云う事は易いのであります、結局やらねばならない所に来ているのでありますから皆様が今年揚げる予定の5ミリ、6ミリを半分支揚げれば良いのです。半分は海に入れておけばよいのです。何故なれば全部のものを揚げて300円で売るものなれば半分揚げて500円に売つた方が得なのです。皆様がこれを守れるか守れないかという事に問題を解決する鍵があると思います。

皆様の声はどうかと申しますと資金的な問題はどうかとか、やれ漁場が無いと云つております。こんな事は自分自身で解決しなくてはならない問題であります。自分がかぶつた帽子は誰も取つて呉れないのだという考え方でなければ解決しないのであります。組合があるから何とかして呉れるだろうという他力的な考え方では絶体に物事は進歩しません。何故なれば自分等が勝手に始めた仕事なのです。只それを何とか良い組織をもつて自分等を擁護する為に方便的に作つた組合なのです。ですからどうしても自分の事は自分でやらねばならないのです。そしてよりよき隣人とお互が手を結ばねばならないと思います。組織の組合でなしに個々と個々の組合が欲しい訳なのであります。組合員であろうが非組合員であろうが、とにかく同じ村で仕事をしたいれば5人

の人が楽をして生きるよりも100人が苦しんで生きて行くのが現状であります。だがこれが現状であつてもその100人の人も食えない様な仕事をしてはならないのであります。どうしても真珠は生かさねばならないのであります。そこをよく考えて皆様が操短にふみ切つているのですがこの結果を待たずして本年秋の販売方法の如何によつては崩壊してしまいます。

皆様がよりよき結集の下にこの組合へ全部真珠を集荷するという様な決意があれば別ですが、これはなかなか出来ません。だから心ある方々が寄つて今年6ミリを半分しか揚げたいという様に決めれば良いと思います。この事は来年仕事を多くする必要が無くなり、そして尚その6ミリは7ミリになります。そうすれば現在アメリカの要望する太いサイズに適合するし、真珠は本来の品質に戻ります。成程漁場の狹隘によつて色も悪くなり巻も薄いという事になりますが、終戦以前の事を考えてみますと現在の6ミリは1年早く揚げています。あらゆる養殖方法を行つているにしてもその浜揚げは1年早いのです。だから真珠そのものゝ低下を来たしてあるのであります。半分売つて全部に相当する値が取れるならば全部売する必要は無いと思います。その様な心構えと、隣人とのよりよき話し合いによつて一つの運動を起して貰いたい。これは皆様に課せられた使命だと思ひます。少くとも實質的にこの業界を運営して行くには、2,600人という現在世界の市場に必要な以上に人員がこの業界に携つています。だがこれも日本の経済状態によつて止むを得ない事であつてこの人達が少くとも1人の脱落者もなく細々乍らでも自分の仕事を守つて行かれるという事を考えるのはとりもなおさず民主々義的な考え方だと思ひます。

だからよく隣り同志で話し合いその結果が中央へ来て更に討議して行くという様にしなければなりません。現在のこの組合の幹部を皆様が動かす様に皆様の思想を一つに統一して欲しいと思ひます。組合の幹部が何んとかして呉れるだろうという考え方は現代的ではありません。たまたま終戦後真珠が1,000貫の輸出から僅か10余年の間に10,000貫と大きく飛躍している所に少くとも安易に皆様が仕事をして来たという結果になつて居るのです。他の産業ではそんな甘いものは何処にもありません。その点をよく諒解して貰つて、なんとか1つの組織をもつと緊密にして行きたい。端的に云えば大きい所が何んとかして呉れるというのではなく自分達の仕事がどんな状態になつて居るかという事を認識していく事です。6ミリの例もこのまゝ行くと恐らく金融的な面だけでなく真珠界そのものが崩れてしまうのです。この点よく考えて三重県自体のこの秋に對する盛り上がった世論が欲しいと思ひます。

對外的な問題は本年半期の輸出データを見てても非常に好調であります。

11,000貫の輸出は可能だと思います。又金額的にも昨年度より現在は上がっております。ですが秋になつて皆さんの投げ売りで2ドルを割るという事になると思います。というのは三重県のニュースは中央に届く以前に輸出の55%を占めるアメリカへ通じています。それ程アメリカは近くなつているのであります。ですから現在5ミリ、6ミリはアメリカでは非常に危惧の念を持つて買止めをしているのであります。これが安定すればもつと5ミリ、6ミリは販売出来る可能性はあります。

昨年、一昨年と私達が調べてどの位5ミリ、6ミリが必要かといふますと現在の商品の組成から見ると、5ミリでは2,000貫、6ミリでも2,000貫だと思いますが今年の如きは6ミリで倍、5ミリでは5割増であります。その上滞荷があり又我々が売つたロットもそのまま残つております。しかし我々は半分の損をしても決して驚かないのであります。何故なれば私は5ミリ丈扱つてゐる業者でありませんから少くとも他のサイズとかあらゆるものに依つて事業が構成されておりますから他のもので利益をとつて行くから別に困らないのであります。困るのは養殖業者であります。ですから6ミリ丈でも半分にしたらどうですか。あとの半分も7ミリ近くなり厚巻きのヨーロット向けの真珠となり、値も昨年近いものとなりましょう。これから種々と皆様と懇談したいと思いますからどうぞ質問して下さい。

中 村 忠 臣

今、5ミリ、6ミリの対策についてお話を伺つたのですが自分等は小さな業者ですが、小さいなりにこの問題についての心配はしている訳であります。来年迄持ち越したいという希望は誰でも大なり小なり持つてゐる事と思います。それで要は資金の問題です。漁場の問題は何んとかなるにしても資金繰りに困つてゐる状態ですが自分でこの資金繰りをしなければという考えは持つております。

が共同の力によつてこの資金もある程度按配をするという2本立てで行けば非常にスムーズに行くのではないかと考えているのですがこの点について何か政府資金なり農中から特別融資を出して頂くという事は出来ないのでしょうか。

その問題については私もかねがね考えております。しかし私が先程申上げた通り要するに皆様の思想を思い切つて180度変えて頂きたい。何故なれば現在皆さんが揚げてしまつても300円は割るのです。半分置けば500円に売れるとい

う目標があるなら、資金的には同じ事だと思いますが。尚、現在迄の様にクこの様にするから資金を貸して呉れ、というのは当を得てないと思います。少くとも自分達が実行し、その力によつて押して行くという事でなければ資金は出ないと思います。それは何故かと云いますと過去に於いてその事がスムーズに、うまく運んでなかつたからです。この組合でも大分資金を借りて来て貸与しましたが大部分の人は実行しても全体的な問題になると非常に曖昧になつてしまうのです。金融関係の方々と話す事があるのですが真珠界のみでなく、どうも何かの組織をもつて仕事をし、政府資金を流すと非常に回収に困難となる、これは日本人の特質だと云つています。しからば何が欠けているのかと云えば戦後の組合主義というものに對する統一した思想を持つていないのです。

我々がこうするから資金を借りるという前提にたち至つてないこの組合の構成だと云えます。というのは組合を共同出荷とか要するに資金を何んとか借りる、或いは自分等の個々に分散している力を結果して大綱を押して行き、よりよき自分等の生活を擁護して行く、という端的な組合の主義は判つているのですがさて實際問題になると非常に個人主義が横溢しています。故に現在如何なる皆様の誓約があつたとしても如何なる政府関係の銀行に於いても早急に資金は出ないと思います。現在農中が一つの枠を皆様に設定しています。勿論農林省の真珠を担当している皆様が非常に努力して下さつた結果です。或いは開發銀行に於いて敝社が指定されたという現状であります。一般に資金はなかなか出ないのであります。真珠というものが担保物件にそわないという事丈でなく現在の組織そのものゝ現れが確定的に資金を我々に流して呉れる丈の信用度が無いという様に考えて貰つた方がむしろ自分等の将来に大きな幸となるのではないかと私は思うのであります。

たまたま農中が大英断でこの仕事を援助して呉れていますがこれは非常に大きな画期的なものでありまして、この15億の資金を我々が如何に上手に業界の安全弁として使つて行くか、この使つて行く人の成果によつて皆様の福利が得られる訳であります。ですから本年直ちに、自分等は半分割かないから何んとかならないかという声は尤もだと思いますが、これを自力で開いて行くという事になれば私はかなり大きな芽が育つのではないかと思つているのであります。

無定見に仕事をして来た2,600人の人々が團結して事に処せば将来への道は必ず開けると思います。

皆様の結束が此処1ヶ月以内に得られるとすれば、この漁協の買付けに於いても少くとも權威ある発表と自信を持つて買えると思いますから何んとか若い世代の皆様が新しい真珠のモラルというものを持つて頂きたいと思ひます。

今、20万、30万と仕事をしても食べて行けない人でも恐らく過去に於いては厘珠を4万か5万やつて結構中流以上の生活をしていたのです。あんな無定見な、そして実際に於いて皆様が究極の販売価格を知らない時代ですら真珠の量が少なくなつた為と、人員の少い事によつて容易に生活して行けたのであります。所がよぎなく我々は先程云つた5人の人が樂をして生きて行くよりも100人の人が苦しんで生きて行かねばならない時代にたちいたつたのであります。それとも志摩の地に別な産業が起きてそれによつて皆様が生活の手段を得られるのなら別ですが現在の英虞湾地区は真珠以外に生活して行く術は恐らく無いと思います。あらゆる人が非常に貧困になつております。丁度畑も少ない所ですし、云つてみれば海が畑となつている様なものです。所がこれが将来の不安で単なるブローカーなり他人の意見を聞いて投げ売りをしなければならぬ、そうしなければ隣りに売られてしまうといった情ない組織ではいつ迄たつても真珠業者は救われないし、もうその危機も来ているのです。

これは大きな問題だと思ひます。安く売られても買う方では一向に困らないのです。しかし真珠そのものが飽かれてしまつては楽な所もそれ所ではありません。日本から生糸をしのぐ98%を輸出する立派な産業が崩壊して行くのです。真珠は現在の物価指数から云つて決して安いものではありません。非常に高いです。アメリカの生活程度から云つても物質的な価値をはかれば非常に高いです。何故高いかと云いますと、戦後のアメリカが日本に對する老婆心と、極東に對する関心と歴史も古く人間のイメージに残つているという事が、真珠を購つて自分等の美の助長に役立たせているのであります。真珠は平和がある限り永遠なものだと思ひます。

決して2,600人が作業するのが多いから半分にしろと云うのでなく2,600人の人が仕事を半分にしても自分の生活の根據を守るという組織が欲しいと思つたのであります。

中 村 忠 臣

一昨年厘珠が非常に滞荷した時厘珠をやつては不可ないから申珠に切り変えよというので切り変えた結果がやはり6ミリが多くなつた。

今年又7ミリ以上が良いから5~6ミリ以下はやるなと云つて作業した結果ダンピングして浜揚時期に又今回の様な轍を踏まねばならないという事になつて来ますと年々追ひ合ひの様な形になつて来るのではないでしようかその見通しについてはどうですか。

その見通しについては尤もな事でありませう。成る程現在7ミリは一昨年、昨

年と非常に少ない。2,600人の人が量的には数量を増加させておりますが7ミリは昨年は1,500貫位して揚がつておりません。一昨年も同様であります。本年は恐らくこれに1,000貫位増加しているものと思います。では對外的な要望はと云いますと現在の倍あつても良いのです。所がこれは今の質問に答えるには余りにも甘い考えであります。これを分析してみますと先程の御質問の通り値は下がります。私はこの値が下がるという問題をダンピングでなしに、自分の生産コストにプラスされた所の生活要素の利益を加えた価格で販売する事が現在の我々の当然負うべき使命であると思ひます。品物の無い所に骨董的な価値が生れるのでありますが、真珠を稀少的な価値によつて売るといふ様な事は現在の我々には許されないので。只、對外的に要望のあるものを作つても問題は其の維持策であります。

だから来年又今の質問の様な事があるとしても、現在の7ミリというサイズが美のバランスから云つてどうかと申しますと、アメリカ人は体が大きいばかりでなく、真珠製品をアクセサリとして自分の体につける人は30才過ぎの人でこの人々は食物の關係上非常に肥る傾向にあります。この肥つてゐるのを外的な身づくろいによつていくらか細く見せる為に7ミリがアクセサリとしては最低となつております。6ミリでは少し小さい。ですから必然的にこの7ミリが6ミリの様な轍を踏むとすれば次には8ミリが要望されて来るのであります。必然的に値も下がつて来ます。現在の7ミリ、8ミリ、9ミリの値は生産原価よりも遙かに大きな利益率があります。この7ミリ値下がりをくい止めるには生産制限とか或いは全体主義的な物の考え方によるしか方法はないのであります。

その是非の問題は現在の日本の原価に於いては私は論ずる事その事自体が馬鹿げた時代であつてやはり2,600人が7ミリが沢山出来たら又8ミリに移行して行くという事を追つて行くのは余儀ない事だと思ひます。只50円のピースが30円に下がつたといふのなら良いがこれを25円に下げたといふ様になつたら大変な事になると思ひます。こういう物の考え方には限界点があるのです。この限界点は自づから生産コストによつて来るものであるといふ事をよく考えるのは要するに思想の統一であります。だから当然年々大きいものに移行して来ます。しかし未だ大きいものには巾があります。少くとも我々が今日この問題を討議するにはもつと先に余裕があるので心配はない。決して永遠の安定ではありません。しかし現在は7ミリが倍出来た所で充分処分出来る丈の販路があると断言しても良いと思ひます。決して心配ありません。2,600人の人が全て7ミリに変わるという事は金融の問題とか技術の問題から見て決してあり得ない

のです。具体的に申しますと7ミリの浜揚げは700円から1,000円ですが、この原価は6ミリと殆んど大差はありません。遙かに高度の所にあると思います。ですから価格が現在の半分になつてから施策を講じても遅くはないのです。所が現在の6ミリは既に原価を割つているのであります。この緊急時からかゝつて行かねばならないと思います。それで皆様の操短によつて得た所の成果が来年から結ばれて来るので、自づから7ミリに於いても他のものに喰われないから値の維持は出来ると思います。又7ミリになりますと個性があります。6ミリ以下では単独で使用する事が出来ません。昨年、一昨年6ミリの良かつたのは何故かと云いますと値の点で安く、7ミリをつけられない時代の余儀ない要望でありました。7ミリが6ミリ以上に出来て来れば8ミリに移行するでしょう。

勿論値の点があります。アメリカでの生活水準は大體400ドルが平均ベースであります。それにもかゝらず真珠は高いものという事になつています。又イミテーションがいくら増えても一向にかまいません。昔からイミテーションのよく売れる時は真珠もよく売れています。アメリカ人は養殖真珠そのものゝ本当の価値を未だ知りません。今後業界或いは政府等が協力してもつと宣伝して行き11,000貫の真珠をスムーズに処分するという努力は勿論しなければいけないのです。只現在の不均衡そのものが外国に伝えられる事が非常に皆様の耳へ入るよりも早い為にと停頓してゐるのであります。年々真珠の値は下がつておりますが、これは不幸な事ではないと思います。即ちもつと民衆の中に溶け込む所のものを持つてゐるのであります。10年前に100万円で買った真珠が今は50万円しか売れない、それ程真珠は信用ないものだという方がアメリカ婦人の中に数10人あつても余儀ない事だと思ひます。

やはり真珠そのものが稀少価値によつて生れたものであつて段々技術が進歩して安くなつて来るのは止むを得ないのであります。2,600人が生きて行くには、又このサイズを作れば余つて行くというのは一応の危惧であります、その為の実質的なものが需要であります。絶体に生活權を擁護するという物の考え方が必要なのです。安くても人並だから商売は損をしても良いわ……家は百姓もしているし家内が磯でもすりや喰つて行けるという考え方で真珠をやつてゐるのなら明日から真珠業を止めて貰い度いと思ひます。それは真珠の冒瀆です。少くとも自分等がソロバンを弾いて、他所で使われるよりもどれ丈でも給料になるという考え方で原価計算を出して頂きたい。決して零細業者の方が安く納まる筈は無いと思ひます。むしろ零細業者の方こそコストは厳密に云へば高くなります。大きい企業の方が安く出来るのです。この様な現在の状態は逆

です。

大西 楠次郎

この様な時に自然淘汰されるだろうとか優勝劣敗とか公然と云う人がおりますが、我々養殖業者は全て公平に生存する事が必要であり、その為に消極的には生産規制を行い又浜揚げされた真珠は積極的に吸収して頂く様努力するのが使命だと思う。

にもかゝらず先回の役員会ではこの生産規制さえも少し崩れて来たとの事非常に残念に思っております。この窮状を救うには強力に生産規制を進め更に僅か10億位の真珠でありますので国家なり大きな公共機関に吸収して貰う様にしたらどうかと思っておりますがどうですか。

問題は真珠そのものが真に保存可能かどうかという事であります。現実に過去3年に集荷された真珠は恐らく戦前の真珠を知っている真面目な養殖業者から見たら実に噴かわしい真珠であります。現在組合に滞荷しているものと浜揚げされて来る真珠が戦前丈の巻を有するかどうかという事は大きな課題になると思います。何故なれば巻は厚くても薄くても値が変らないから早く売つた方が得だというのが戦後の思想でした。我々が駐留軍によつて真珠の目を開いて貰い彼等によつてアメリカへ渡つたのが宣伝機関となつて真珠がアメリカへその当時は70%売れておりました。その頃ヨーロッパは未だ経済が復興してなかつたのです。この様な意味でアメリカは新市場の性格を有しその為に真珠の見方が粗雑であつたのです。ですからキズが無ければ多少薄くても構わないという思想が段々養殖業者を毒して行つたのです。かてゝ加えて業者も増えたので一刻を争つて早く作り早く売る様になりました。

この事が真珠を昔の形とは一変させたのです。だがアメリカに於いても真珠そのものに對する憧憬の念はもう10年になります。もう薄いものには見向きもしません。今後は厚いものを要求して来るのは明らかであります。その矢先に、此処に良い施策をして大きな金を持つて来て我々がどんなにして現在の真珠を買占めた所でこの真珠は恐らく2,3年したら見られないものになります。試みに皆様組合にある真珠をあけて見て貰つたら判ると思います。大体が1.6分から1.8分というサイズを戦前より1ケ年は早く掲げている筈であります。その上漁場の狹隘、密殖が重なっている状態の上に99%がナイロン巻が早いからと云つて1年も早く掲げて良い真珠が出来る訳が無いのであります。ナイロン帛がいくら早いからと云つても拡大鏡で表面を見ますと非常にキメが荒い。

密殖により多少色は悪くなくても昔の様に巻いた真珠が出るなら、私個人でも10億位の金は出して買います。少くともその位の意気は持つております。

中 村 忠 臣

今、品質の問題が出たのですが我々が組合へ出品しても、又他へ買つて頂いても割によく巻いているものはクリームがかつており薄巻のものは比較的白く見えるというので厚く巻かしても目方がとれる丈で値段の点では大差ないので資金操りも楽だし早く揚げた方が良いというのが一般の考える所となつていますが、これについて厚く巻いているものは果して貯蔵に便利な位のもので値の開きはそうないのですか。

漁場が密になり厚く巻かせるとクリームになつて安いというので白く上げるのに拍車をかけているのだと思います。所がこの白いものは上げた時は確に白く光つていますが長くおくと風化されたり、加工処理によつて尚薄くなるのです。出来たら厚く巻かしてクリームにならない様にする技術の革命が必要なのです。厚巻にしてクリームになつたからと云つて値が上がるとは限りません。現在不幸にしてクリーム、金色はブラジル市場が悪いです。というのは昨年8月頃からブラジル貨幣が下がつて来ているのです。最近クリーム系統がどの位ブラジルに出ているかと申しますと、昨年浜揚げされたクリーム系2,000貫の中の1割3、4分であります。所がブラジルと日本との輸出入協定に真珠は入つておりません。だから我々は直接ブラジルへ輸出が出来ず三角貿易と申しましてアメリカを中継しているのであります。

その為アメリカの値によつて左右されているのであります。又ブラジルの真珠を扱う業者も貨幣価値が下がつたので苦境に立っているのです。こういう事が重なり現在金色系統は非常に安くなつています。

6ミリ以下の厘珠の金色はインドが買います。インドの買う相場は大体浜揚げの相場と同じだという事に昔からなつておりますが最近は非常に安くなつています。というのはインド人の輸入の許可が無いのであります。インドがどの位真珠を輸入してるかと申しますと大体1,000貫から1,500貫位です。所がインドも大戦後一つの革命が起きて英国から独立したのですが、自分の国の経済の発展の為に輸入に對して非常に制限を加えています。その為、再輸出する人のみに輸入の許可をしています。この許可が無いとインド人は日本に来られないのです。そういう關係で昨年は非常に許可が少なかつたし、一部の商社がかなり大きな許可を取つたのです。この一商社で250貫から260貫の厘珠を輸出して

おります。それ故金色はインドの許可の有無によつて非常に購売力が違つて来ます。この様な状態でありまして浜揚げにクリーム、金色を作るのは皆様にとつて非常に不利な事であります。しかしクリームの場合でも厚く巻いた良い品物はヨーロッパに向きます。クリームピンクとか俗にオリエン・カラー、フレンチカラーとか云つております。これもフランスの要望であります。フランス或いはベルギー、スペインの方面の人はクリーム系統が好きです。フランスは現在、軍備拡張費にとられ輸入も縮小されて居り、クリームも余り好況ではありませんが厚く巻いたクリームは加工しますと少し色が抜けます。この事は大概の加工業者は知つているので薄いものより少々値が良くても厚いものを買います。ブラジルも日ならずして回復して来る事でしょう。私の所では金色は三流品迄は売つてますが良い金色は売止めしております。

大体9月が金色の出る時ですので現在私は1億程の金色を持つております。これも大分損をしているのですが損をしても構わないのです。少くとも一応自分は日本で一番の仕事をしているという自尊心から一度云つた事は実行します。例えそれが損でもせめてもの抵抗だという思想を持つているからなのです。厚巻にするとその様な欠点がありますが、その代り金色にすると必ず良い花珠も出るので。昨年此処に集荷された厘珠の中で4、5年前の花珠に相当するのは一つもありません。恐らく最高は1,300円位だつたでしょう。現在私の出している最高は2,500円位でありまして、これはバイヤーから買った品物です。日本中何処を探してもありません。

5、6ミリは既に瀬戸際に来ているのです。ですからこの秋、皆様が僅かの辛棒で完うすれば我々はどうな施策でもして必ずや期待に副う様な政治的な運動をさして貰います。

伊勢谷重吉

半分浜揚げするという事は良いのは判つているのですが我々弱少業者は協力したくても出来ない状態であります。現在の様な経済状態では益々増産する以外に経営を救う手段は無いのです。そこで買取の方法をもう一步進めてクロ介の買取も合せてやつて貰う訳にはいきませんか。そうすれば我々でも充分協力出来るのですが。これでも協力出来ないという人は最初からその気が無いのですから論外ですが。

実はその様な事にも思いを馳せているのですが、誰がそのクロ介を管理するかという点に困難な問題があると思います。組合が10億の金を借りる事は皆様

の思想の統一があれば借りられます。これが特定の漁場があつてそこで預つて呉れるなら良いがそれもならず至難な事であります。又その様な大きな運動を起すには余裕が無さ過ぎます。もうあと1ヶ月しかないのです。だから皆様が我々は半分しか上げないんだ、という事になれば良いのですが皆様は必ず資金が無いと云います。それは我々大きい所でも同じ事なのです。皆様方から買えばそれに見合う手形を書かねばならないのですから。ですからこの問題はお互が自分で解決して呉れねばどうにもならない問題なのです。

現在私の持つている5,6ミリは800貫あり、その中の220貫は組合から買つています。又九州とも関係していますので九州の珠も100貫以上買つております。この夏場に800貫のストックがありますが、7ミリ以上は見るべきものがありません。しかし私はそれに対して危惧の念は持つておりません。何故なれば私が今持つている800貫を売つたら半値になります。ですから売らずに置いておき皆様が安く売つて来る品物を買つて平均して行きます。今私の所で毎月出しているのは120貫から150貫位ありまして、その中の60貫程は5,6ミリであります。この60貫でも自分の持つているのは20貫であとの40貫は買ったものを使つています。故に利益率は少ないが困らないのです。その責任はどこによつて来るのか、皆様と同じ事を云い度いのであります。結局はお互が忍んで成程協同的な力によつて大きな金を借りるといふ理想はあるとしても現状で直ちに移る事を先ず考えねばなりません。

そうしてどうしても来年迄持ちこたえられないとしても12月1月迄に我々がそれを実行して行けば問題はあとで自づから解決出来ると思ひます。3年物だつたら喜んで買います。私の所でも今年は6ミリが200貫揚がつて来ます。私は政策的に揚げたくないのですが、他所で買つてもヨーロッパへ出せる物が無いので止むを得ず揚げています。ヨーロッパの中でも西ドイツは特によく、アメリカに次いでおります。量的には少いのですが値は相当に良くドイツに輸出するものを他所で買う事は至難であります。

入札会にしても私なり1,2の業者が行かないと値が下がり入札会が成立しないという事ではいけないと思ひます。それは真珠の市価といふか販売の究極のものに対する皆様の勉強が足りないのです。

研究会そのものも結構な事でありませう。又研究会そのものが今日の私の話の母体になつてくれともお願いしますが、唯皆様が家へ歸つて話し合つて下さい。特に若い人々が次の真珠界を負つて行く即ち新しい思想を作るのです。形式的な組合主義とか云うものは既に限界点に來ているのです。もつと日本人として意識ある仕事をし對外的に誇を持つて仕事をして欲しい。

くれぐれも厳密なる原価計算をなし自分の生活源を盛り込んで行くという様にして下さい。真珠の原価計算は販売価格そのものによつて構成されます。20円についたから22円で売るというのではなく100円のコストでもつて200円に売るのははるかに原価計算に於いて安いという経済観念に立脚して頂きたいと思ひます。

皆様がお帰りになつたら何んとか10月の集荷迄に少くとも各村各村があれ丈の辛棒を忍んで減産の針路にまつしぐらに進んでいるのですからそれに對する責任と權利を主張して頂きたいと思ひております。

中 村 忠 臣

先程も誰れか云いましたが誰れでも思ふ事は一緒であります。しかしこれが全部の行動にならなければ何もならないのであります。皆が下から盛り上がる力と上からの施策によつて本年の5、6ミリの浜揚の規制という問題をしていかなければならないと考へるものであります。

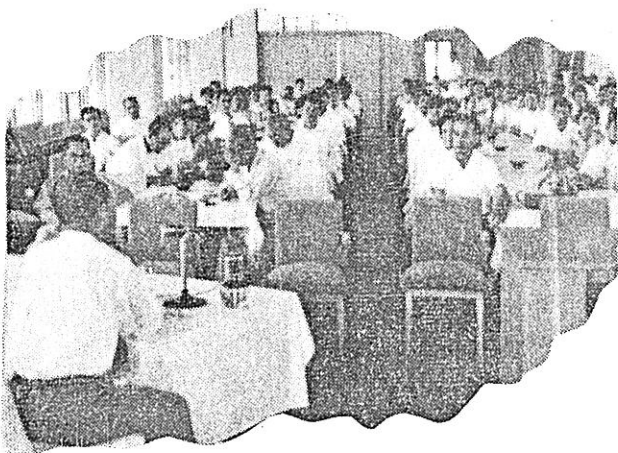
やはり地区へ帰りましたらそういう氣風を盛り上げると同時に組合の施策として本年度の全国の浜揚げの規制という事に努力し、よく巻いたものは良く評価してやるという様にして兩々相俟つてこの問題を解決していかなければならないと考へております。

尤もな事と思ひます。その点につきましても、これは余談になりますが、此処に高山氏が見えておりますが振興会の役員をしておられます。私が特に要請して来て頂きました。というのは、かねがねジェットロと申しまして半官半民の對外的な宣伝機関がありまして、我々が1千万円出しますと向うも1千万円出して呉れるのであります。

要するに面白いストーリーによる真珠の宣伝はコマーシャルの方がやつて呉れます。我々は技術的に、顕微鏡的な物の見方かも知れないが、對象によつて巻の厚いものと、薄いものというものゝ文化的な映画を作つて對外的な宣伝に持つて行きたい。若し業界でこの資金を出すものを拒否すれば私個人でも出そうという事は私1年前から云つております。皆様が厚く作つて呉れた真珠を單なる我々部内丈で厚い薄いと論ずる丈でなしに對外的に宣伝して行く事もやろうと思ひます。

又組合の買付に於いても本年は従來の様な買付方法でなしにもつと画期的に本質を買うという様な所に重点をおきたい。市価に左右されてやるのでしたら集荷する意義はありません。だが止むを得ず昨年はあの様な状態になつたので

す。昨年私は組合で5ミリの浜揚げは420円と主張した訳なのです。6ミリは550～600円にしると云つたのです。この事については非常に責任を感じています。何故なれば私は値が下がらんと思つていたのです。だが本年は幸に昨年より盆を控えているにも拘らず売手が少ないです。



と云つて皆様の経済状態が良いかというとは私はそう信じていません。皆様が操短という一つの意識とどうしても真珠は巻かして値よく売り度いという意識が切実に応えているという事が現在の早揚げを阻止しているのだと思います。

どうか一つお互が手をつないで仕事に責任を感じ、この真珠業界を崩さない様にされる事を望んでおります。



卵抜き之母貝状態による入核直後の斃死率について*

大 須 賀 正 二

(共栄水産株式会社)

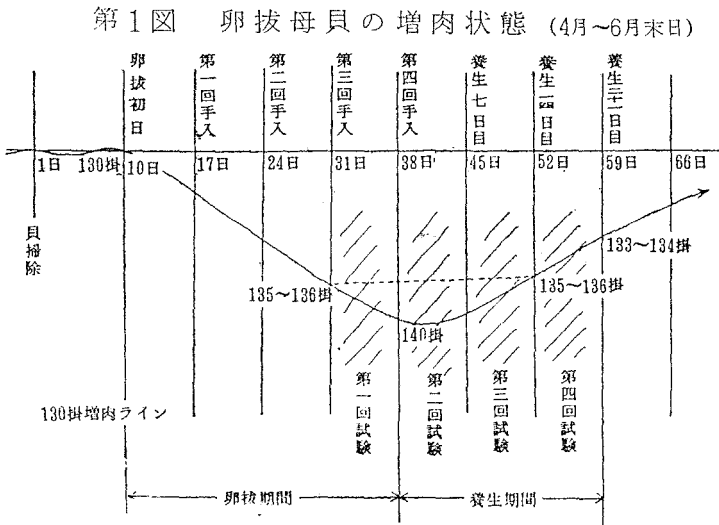
私の工場では昨年迄非常に入核直後の斃死が多く採取迄の斃死率に比べて相当高い率になりこれではいけない、何とかして冲出し迄(入核後15日間)の斃死を低下させようと色々和努力しました。入核後の斃死は多くても又少くとも採取珠に関係が大いにあると考えられます。そこで如何に成績を向上するか否かは

1. 斃死率を出来る丈少くする事
2. 脱核を出来る丈少くする事
3. キズ玉を出来る丈少くする事

大体以上のように考え、それには第一に斃死率を甚少にするには入核直前の母貝状態が如何なる場合が良いかを調べて見ました。

◎ 卵抜きの大要

母貝はどこかの養殖場でも同じと思いますが、卵抜き前に掛数別に選別して卵



抜きにかゝります。母貝は一応掃除をして約10日間位で掃除の刺戟より目方の減りましたものは又普通の状態にもどりますから

* 8月研究会発表

それから卵抜き作業に入るわけですが、私の工場では卵抜籠に掛数により大体20個増位に入れ約6~7日して第1回の手入れをします。

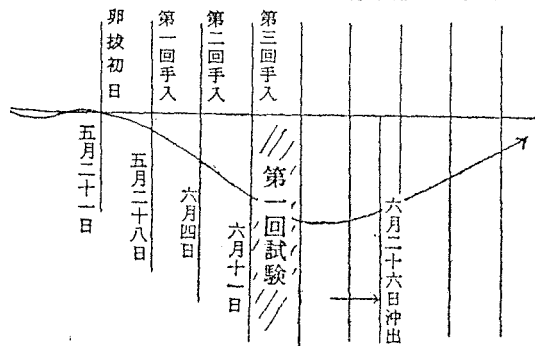
手入れは上下入換えと足糸をメスにて切断して又同貝数を入れ、約2時間位上層部(20糎)に吊り上げ、又15~16尺に吊り下げます。

卵の良く抜けるのは潮のみち込む時と同じく水温が一番上昇した時が1日のうち最適で、朝などは吊上げず昼過ぎにその種類、掛数毎に吊り上げます。

第1回手入が過ぎ、第2回手入れ頃にはかなり足糸も付着力が弱くなり、そのまま引き切り第1回と同じように吊り上げ又吊下げします。第3回手入頃には母貝状態もまもなく珠入れに適するか否かの条件に極度の観察をして第4回手入れに入ります。第4回頃はすっかり卵もなくなりますから母貝の状態により、今度はその母貝の養生に関心を入れます。

養生方法には漁場により種々異なりますが、私の所では今迄卵抜きに使用した竹籠に卵の抜けた状態により貝数を減じて約20日位は卵の持たぬように注意してなるべく増肉の状態に入るようにして、入核条件に最適の時期を待ちます。言う迄もなく卵抜き作業は漁場時期により異なりますから一様ではありませんが、

第2図 第1回入核、斃死結果 (6月11日~16日)



その母貝に對する観察は充分注意して行います。

◎ 第1回試験

第1回は卵を少し持つていて完全に排卵する前の条件のものばかり集めて試験してみました。入核に際しては少し卵もあり細胞を入れても後もどりするものが10貝につき一ピース位あり、肉もまだまだ余祐もあつて

母貝掛数	サイズ(糎)	作業員数	斃貝数	死率%	作業員数	斃貝数	死率%
130	20~22	2,032	15	0.73			
120	21~23	2,630	50	1.90			
110	22~24	1,575	78	4.95	2,800	35	1.68
100	23~25	1,700	28	1.57	4,950	47	0.95
小計		7,937	171	2.15	7,750	82	1.50
累計		15,687	253	1.61			

入核としては同じサイズを入れるには少し楽な様に感じました。このことから入核して養生中に卵の抜けると言う事も考えますと、大きな核が入るにしてもさけるべきと思います。

浅竹籠

クレモナ網籠 (1.5寸目) Pearl net.

沖出しなどは第2図のよ

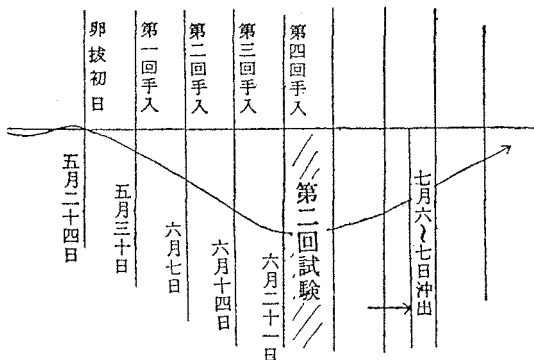
うです。養生方法は浅竹籠に100位並べて筏に吊下げます。深さは15尺内外、クレモナ・パールネットは1寸5分目の4~5段階です。

結果は 浅竹籠使用が2.15% } 両方の平均が1.61%
 クレモナ・パールネット使用が1.50% }

と言う結果でした。この場合養生方法により又斃死率に於ける脱核率は記しませんでした。

第3図 第2回入核、斃死の結果

(6月21日~6月26日迄)



母掛数	サイズ	作業員	斃死	死率%	作業員	斃死	死率%
130	19~21	1,800	38	2.11	2,145	9	0.42
130	20~22	1,690	19	1.36	1,650	14	0.85
120	21~23	1,050	20	1.92	2,132	13	0.59
110	22~24	300	2	0.66	1,213	23	1.89
100	23~25	1,275	44	3.45	1,266	40	2.63
90	24~26				2,925	96	3.35
小計		6,115	123	2.01	11,321	197	1.74
累計		17,436	320	1.83			

浅竹籠

クレモナ網籠
 Pearl net.

た。卵の抜けた第2回試験より肉はかなりふつくらとして、入核も更に能率は上昇してきました。母貝も前回の試験より状態も良く入核に適した母貝になってきたように思われます。

斃死結果は

クレモナ・パールネットで 0.85%

になりましたが、入核者として斃死率の多いのはやはり採取に影響ありと見て、前回迄浅竹籠使用はやめました。と申しますと斃死率の問題のみですが脱核に

◎ 第2回試験

第1回とは異り卵の完全に抜けたもので肉も非常に小さく、入核も同サイズでは困難な気もし、能率も第1回より更に低下しました。入核するには、このように肉の小さい時は不適當である事は明確ですが、採取結果がどうかは不明です。

斃死率は

浅竹籠は 2.01% } 平均
 クレモナ・パール } 1.83%
 ネットは 1.74% }

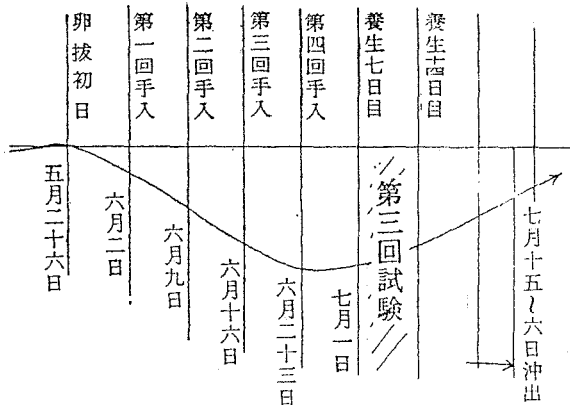
となり第1回より上廻つていました。

◎ 第3回試験

第1,2回と異り、10貝中7~8貝は増肉してきましたものばかりになりました。

第4図 第3回入核斃死の結果

(7月1日~7月6日迄)



母貝掛数	サイズ(厘)	作業員数	斃貝数	死亡率%	作業員数	斃貝数	死亡率%
130	19~21				2,430	8	0.33
120	21~23				600	1	0.16
110	22~24				2,314	17	0.73
100	23~25				1,414	19	1.35
90	24~26				2,269	32	1.41
累計					9,027	77	0.85

クレモナ網籠
Pearl net.

相当の療養が必要なのと同じく、真珠貝にも入核に際して卵抜きは相当なるシヨツクですから養生と言う事は絶対に必要だと言われます。

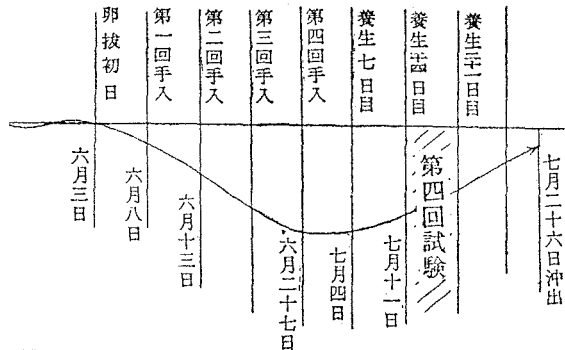
斃死率は

クレモナ・パール
ネットで 0.60%

となり大体1,000貝で6個でした。

試験は一応4回にて終了しましたが、入核するには結果的にみて

第5図 第4回入核斃死の結果 (7月11日~7月16日迄)



母貝掛数	サイズ(厘)	作業員数	斃貝数	死亡率%	作業員数	斃貝数	死亡率%
70	25~27				2,325	18	0.77
90	24~26				5,700	53	0.92
100	23~25				1,115	8	0.71
110	22~24				2,030	9	0.44
130	19~21				3,540	1	0.02
					14,710	228	0.60

も影響があるか否はまだはつきりしたデータがないので記しません。たゞ入核後15日間養生しますが、それから浅竹籠より移動するのは理想でないと思われます。

◎ 第4回試験

今迄第1,2,3回の試験をみますと、4回試験は絶対に入核条件に好適である母貝になつたように感じます。

サイズとしても一厘位大きいものが入るように思われます。人間でも同じですが、病気を

して仕事をする迄には

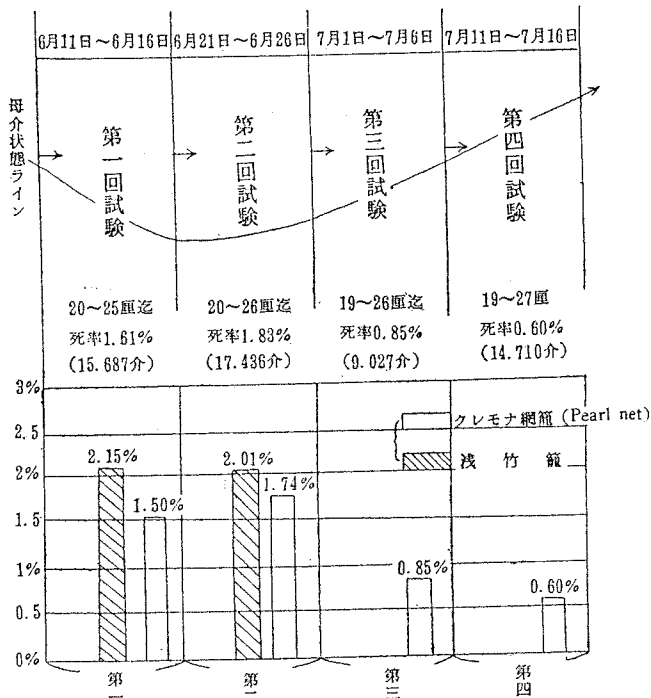
クレモナ網籠
Pearl net.

これが好結果であります。では同母貝に於て同サイズを入核するとしたらまず

第1回	2分 (0%)	2分1厘 (100%)	2分2厘 (0%)	普通サイズ
第2回	2分 (60%)	2分1厘 (40%)	2分2厘 (0%)	1厘落し
第3回	2分 (0%)	2分1厘 (90%)	2分2厘 (10%)	普通サイズ
第4回	2分 (0%)	2分1厘 (20%)	2分2厘 (80%)	1厘上サイズ

と思われるようなサイズになる母貝状態でした。

第6図 母貝状態による斃死率



その母貝状態の斃死率がどのように採収に関係があるかまだ判りませんが、斃死率のみについて考えますと、テーマより少し外に出ますが参考迄に記しました。

母貝状態と入核直後の斃死率は不明ですが、沖出し後第1回掃除（沖出に最も近い斃死率）より避寒迄の斃

第7図 32年もの採収成績表

サイズ厘	入核数	入核期	作業場	母貝	避寒場	作業員数	採収数	$\frac{b}{a} \times 100\%$	上玉%	下玉%	1母貝に対する採収数	1母貝に対する自方採収数
~22	2	32.7月	神明	29年	迫間	a	b	82.9	67	33	2,130	1,763
"	"	"	"	"	"	"	"	77.8	62	38	1,916	1,487
"	"	"	鏡浦	"	"	"	"	91.2	72	28	2,416	2,203
						平均		83.9%	67%	33%	2,154	1,817
~23	2	32.8月	神明	29年	迫間	a	b	49.5	65	35	1,858	917
"	"	"	"	"	"	"	"	49.8	63	37	1,861	904
"	"	"	"	"	"	"	"	46.7	68	32	1,699	793
"	"	"	"	"	"	"	"	52.0	70	30	2,189	1,178
"	"	"	鏡浦	"	"	"	"	70.2	75	25	2,481	1,741
"	"	"	"	"	"	"	"	76.9	76	24	2,631	2,023
						平均		57.5%	69.0%	31%	2,119	1,259
~24	2	32.7月	神明	29年	迫間	a	b	51.2	41	59	1,795	919
"	"	"	"	"	"	"	"	53.1	42	58	1,886	1,001
"	"	"	鏡浦	"	"	"	"	79.8	68	32	2,541	2,027
"	"	"	"	"	"	"	"	80.1	69	31	2,492	1,996
						平均		66.5%	55%	45%	2,178	1,486

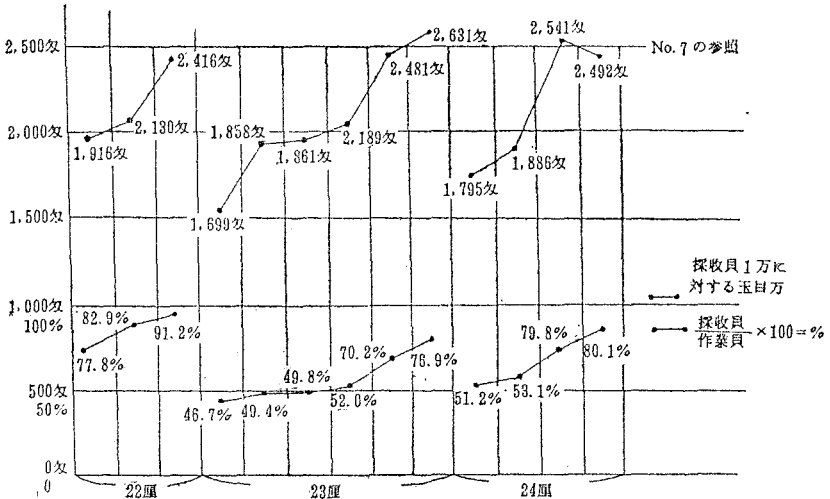
死率は第7図の一部ですが

2分2厘・2ケ入 32年7月入核（神明工場）母貝120樹もので

入核員数対採収員数率	第1回掃除	第2回	避寒掃除	採収迄の斃死率
82.9%もの	5.3%	2.5%	1.6%	17.1%
77.8%もの	8.0%	6.5%	3.0%	22.2%
(鏡浦工場入核) 91.2%もの	3.6%	1.2%	1.0%	8.8%

となつており第1回掃除の斃死率が少いものは、採収員数もその割に多く、又採球量も多く、しかも良玉と下玉の割合からも斃死率の少いものが如何に採取にとつて関係があるかは明確です。

第8図 採収員に対する玉の目方



第8図は採収員数が斃死率に對しどのような玉目方に影響があるかについてですが、グラフの如く10中8~9は採収員数率（斃死率）に比例しています。

採収員作業員 $\times 100 = \%$ の少いものは採収員1万員に對する玉目方は少く、又多いものは多いと言う結果になつています。

斃死率を少なくするのは勿論ですが脱核にも又技術的にも検討する事が必要です。

尚昭和32年度採取表は母貝状態についてデータもなく結果のみですが一応の参考になると考え記しました。

採取玉の成績は色々と関係がありますが、

技術・管理、母貝仕立

など其の他色々ありましようが、個々について又それに関連して今より成績を向上して良い真珠を作る事に努力する事が業界にとりプラスになる事が多いと思います。

以上が私の行いました試験、其の他結果よりみた私考を混えたものですが、入核直後の斃死率に對し脱核の状態を調べつゝある段階ですが、皆様方の結果で明確なものがありましたら御知らせ願えましたら幸甚です。

月日	水温	δ^{15} 比重	月日	水温	δ^{15} 比重	月日	水温	δ^{15} 比重	月日	水温	δ^{15} 比重	月日	水温	δ^{15} 比重							
5月	16	18.9	21.5	4	21.0	21.5	23	23.0	21.8	12	23.0	21.7	31	27.8	21.5						
	17	18.2	21.0		5	21.0		22.2	24		23.5	21.9		13	24.5	22.1	8月	1	27.2	20.8	
	18	18.3	21.6		6	21.0		22.0	25		24.0	23.0		14	25.0	20.2		2	28.0	20.0	
	19	18.2	22.1		7	23.5		23.4	26		22.5	21.6		15	23.1	21.8		3	27.8	22.0	
	20	20.3	22.6		8	23.5		23.4	27		23.4	21.4		16	22.9	22.2		4	25.2	22.3	
	21	19.6	20.5		9	21.5		22.4	28		23.0	21.7		17	25.0	17.7		5	24.2	22.0	
	22	21.5	21.9		10	21.0		22.3	29		23.5	21.9		18	24.2	20.2		6	24.5	23.1	
	23	18.5	21.5		11	21.0		22.3	30		24.0	22.0		19	欠	欠		7	24.7	22.2	
	24	18.5	21.0		12	21.5		22.3	7月		1	欠		欠	20	23.8		21.5	8	24.5	22.6
	25	21.5	20.5		13	21.3		22.4			2	欠		欠	21	24.5		20.6	9	23.0	22.2
	26	20.5	21.5		14	22.7		22.6			3	23.6		21.9	22	24.8		20.7	10	23.5	21.9
	27	18.6	21.2		15	22.5		22.6			4	欠		欠	23	24.0		20.5	11	24.6	20.7
28	21.0	21.5	16	23.0	22.8	5	25.8	21.5		24	24.2	22.1	12	24.0	21.0						
29	20.1	21.0	17	22.7	23.2	6	25.0	22.3		25	24.8	21.2	13	24.0	21.5						
30	21.5	21.5	18	23.5	22.9	7	24.5	21.6		26	25.2	17.7	14	23.8	21.9						
31	21.6	21.5	19	24.0	23.0	8	25.0	21.2		27	26.8	17.65	15	23.8	18.9						
6月	1	20.0	21.5	20	21.5	22.4	9	24.5		22.1	28	25.0	21.2	16	24.5	18.5					
	2	21.0	21.0	21	21.0	22.3	10	25.1		22.3	29	24.0	22.0								
	3	22.4	21.5	22	23.1	22.8	11	23.0		23.8	30	26.0	21.0								

ピースの摩擦が真珠の品質に及ぼす影響

蓮 尾 真 澄

(国立真珠研究所大村支所)

真円真珠が形成されるためには、真珠袋が必要であることは、よく御存知のことと思いますが、真珠養殖の場合に、真珠袋は、母貝の体内に挿入されたピースの外面（貝殻に接する面）の上皮細胞により形成されるだろうと考えられています。一方、ピース貝の年令、ピースを切りとる位置等が真珠の品質に微妙なる影響を与えることは、己に経験済みの方もありましょうし、裏付けをなすいくつかの研究報告もあります。そのために、ピースの取扱いについては、深い関心が寄せられ、色々と論議的にもなっております。

さて、ピース切り作業の際に、切りとつた外套膜の表面を、スポンジや脱脂綿等でこすつていますが、これは、ピースを作り易いように外套膜の形を整えると共に粘液をとり除くという意味が含まれていると云えましょう。この場合に、ピース外面の上皮細胞は、前にも述べたように、真珠袋の形成にあずかる重要な部分ですから、粘液をとり除く程度の軽い摩擦に止めておくことが望ましく、内面（貝殻に接しない面）は、その上皮細胞の存在と真珠袋の関連は、一応無視出来るようですから、やゝ強く摩擦して、上皮細胞が剝落しても差し支えないと考えられます。では、何故粘液をとり除く必要があるのか、粘液があれば、どのような影響があるか、又、外面の上皮細胞には、出来るだけ損傷を与えないようにしなければならぬという根拠等について検討してみる必要があると思います。

高山・中原両氏は、ピース切り作業にあつての上皮細胞の剝落状態について組織学的研究を行つていますが、その応用研究ともいふべき、摩擦に因る上皮細胞の剝落程度や粘液の存在と珠の品質との関係について試験を行いましたので、その概要につき述べてみましょう。

試験母貝は養殖4年貝、細胞貝は養殖3年ものを夫々使用し、ピースの調整は次の方法によりました。

- A. ピースの内面のみをピンセットの背でやゝ強くこすり、外面はピンセットで粘液を除く程度に軽くこする（現在、支所で実施の方法）
- B. 内、外面ともに、やゝ強くピンセットでこする。

「しんじゆ」第43号より

C. 全く摩擦しない。

一方、上皮細胞の剝落状態を観察するため、ピースの各試料を10%ホルマリンで固定し、パラフィン切片を作り、エオシン、ヘマトキシリンで二重染色を行い、顕微鏡観察の結果は次の通りでした。

A. 内面の上皮細胞の大部分が剝落し、外面は殆んど完全である。

B. 内面は殆んど完全に剝落し、外面の上皮細胞にも剝落の部分が認められる。

C. 内面の上皮細胞は殆んど完全に剝落を認めない。

施術は昭和33年8月上旬に行い、夫々異なる処理を経た各ピースを使用し、3群の母貝に1.2分核(3.77 ± 0.03mm)を2個挿入、本年1月下旬に浜揚げし、珠についての統計的検討を加えてみました。

1. 真珠の色

浜揚げ珠(白珠、屑を除いたもの)を肉眼的観察によつて、ピースの処理別に5系統の色に分類し、その出現分布状態を示したのが第1表です。この表より、ピース摩擦の程度によつて、珠の色の出現率に差があるかどうかを X^2 —法

第1表 真珠の色別出現率

	ピンク	ホワイト	クリーム	ゴールド	グリーン	計
A	46(27.6)	50(29.9)	57(34.1)	7(4.2)	7(4.2)	167(100)
B	36(23.1)	54(34.6)	51(32.7)	7(4.5)	8(5.1)	156(100)
C	50(24.3)	71(34.5)	69(33.5)	6(2.9)	10(4.8)	206(100)

()内は%

により検定すると、有意の差はありません。即ち、外面を軽くこすつて、上皮細胞が殆んど完全な状態であつても、上皮細胞の剝落部分が認められる程や、強くこすつても、又、全くこすらずに粘液が残つていても、それら外套膜表面の状態の相違は、珠の色の出現分布に影響を及ぼすことはないようです。

2. 真珠の巻き

浜揚げ珠をピースの処理、真珠の色別に全数秤量して、真珠の巻きを1個当

第2表 真珠の平均重量

	ピンク	ホワイト	クリーム	ゴールド	グリーン
A	0.110	0.100	0.105	0.129	0.107
B	0.110	0.094	0.099	0.121	0.092
C	0.103	0.095	0.100	0.117	0.096

(単位: g)

りの平均重量で示すと第2表の通りになります。この表より、5系統の色の珠についてピースの処理間の平均重量の差をF—検定法によつて検定すれば有意の差

が認められます (危険率1%) 即ち、珠の巻きに差があると云えましょう。次に、どの処理間に差があるかを調べるため、2つずつの組合せを作り、検定すると、AとB・Cの間には、いずれも有意の差が認められ(危険率5%)、BとCの間には、有意の差がありません。云いかえると、外面上皮細胞の粘液を除く程度に軽く摩擦したピースを使用した場合は、やゝ強く摩擦したものや全く摩擦しないものを使つた場合よりも、珠の巻きが良いと云えるようで、後二者については、どちらの巻きが良いとも悪いとも云えないようです。

3. きず珠、しみ珠

取揚げ珠 (白珠を除いたもの) を各処理別に、きずの有無、個数及びしみ珠に占めるきずの多少によつて6種の珠に分類し、その出現状態を示したのが第3表です。この表より、きず珠、しみ珠について各処理別の出現率に差があるかどうかを χ^2 -検定すると、有意の差が認められます (危険率1%)。では、どこに差があるかを調べるため、検定を進めると、A・Bの各処理間には、1点きず珠に有意の差があり (危険率1%)、AとCでは、1点きず珠、3点以上きず珠に差が認められます(危険率5%)又、B・Cの各処理間には有意の差がありません。

第3表 きず珠・しみ珠の出現状態

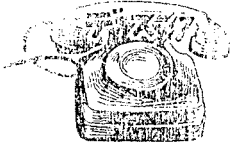
	無きず	1点きず	2点きず	3点以上	しみ小きず	しみ大ききず	計
A	8(4.5)	33(18.8)	27(15.3)	48(27.3)	45(25.6)	15(8.5)	176(100)
B	7(4.3)	14(8.7)	27(16.7)	52(32.1)	49(30.2)	13(8.0)	162(100)
C	7(3.2)	11(5.0)	38(15.4)	84(38.0)	58(26.2)	27(12.2)	221(100)

()内は %

以上を総合すると、粘液を除く程度に軽く摩擦したピースを使用した場合は、やゝ強く (上皮細胞の剥落部分が認められる程度) 摩擦したものよりも、1点きず珠 (きずの少い珠) が多く得られ、又、全く摩擦しなかつた場合に比べて、1点きず珠が多く現われると共に3点以上きず珠 (きずの多い珠) が少ないと云えるようです。やゝ強く摩擦したピース、全く摩擦しないピースを夫々使つた場合は、どちらがとくに、きず珠、しみ珠が多いとか少いか云えないようです。

以上の如く、ピース外面の上皮細胞に剥落があつたり、粘液の存在する状態は、真珠の品質に對して芳しからぬ影響をもたらすことがわかりましたが、これは、挿核に際して、ピースの状態を如何に重要視すべきであるかの理由にもなると思います。又、施術後の管理状態が珠の品質へ影響を及ぼすことは一般に認められていますが、己に挿核時のピースに基因する不利な要素を、その後の管

理によつてカバーし好転せしめるには困難を伴うものとも考えられますから、本試験の結果からも、ピースの取扱いについての細心の注意と周到なる検討が一層必要であることを痛感させられます。なお、現在試験中のピース貝の強弱と珠の品質との関係については、結果が得られ次第お知らせします。



水

去る7号、8号台風は雨を相当もたらしたが、すぎや否や、デスクのベルが鳴りだした。

「もしもし、こんどの台風の被害はどうか、水が相当出たでしょう？」 記者クラブからの電話だ。

伊勢での想像では大分水が出るので多少経つてから被害が起るだろうと早速あちこち問い合わせしてみた。

所が案に相違してどこからの返事も「大した事ありませんよ」。更に的矢からの返事には驚ろかされた。「そうですね、大体表面から2m位迄は真水です。しかし吊層はもつと深いしこれ位の雨では何ともありませんよ」との返事……。

そんなものかなあ—と思つていたが、思い起せば7月下旬のある日、水中遠征のトレーニングとしてこのへんでは一番よいと言われている的矢湾口の安乗へ行つた事がある。地元の山口七郎氏の御援助で予定通り水中撮影も終了したが、夕方頃湾口部にある「大倉島」に泳いで行つて驚ろいた。外洋水が流れ込む波荒い湾入口の真たゞ中の海中をのぞいたが、油を流した様でてんでピンボケ。ぐつと下に潜ると始めてみえてくる始末。真水が流れ出す川口の海ではよくこういう事がみられるが、こんな所でまさかこんな事に逢うとは思わなかつた丈にびつくりしたわけであつた。

考えてみると、これより5日位前に大雨が降つたが今頃になつて伊勢湾の奥から水が流れ出し、折から夕方の満潮にのつて、的矢湾に押し込まれる現象だと推察された。

あちこちで何回も潜れば、いろんな面白い現象にぶつかり、興味丈でなく、役立つ資料ともなるわけである。(白井Ⅸ-10-159)

御

挨拶



今回、業務の都合で東京に転任する事となり、この真珠研究会ともお別れしなければならなくなりました。

顧みますれば、研究会創立以来2年を過ぎた今日まで、一致協力してこの会の発展に努めて下さった皆様とお別れすると云う事は、私に取りまして誠に淋しく、且、又残念でなりません。

会員の皆様には今後共お元気に、又この研究会の育成に努力せられ、業界の発展に寄与する事の多き様に祈りつゝ、お別れの言葉としたいと思います。

昭和34年8月17日

富士真珠 横瀬 寛一

転任先

東京都中央区日本橋小網町二ノ一二

株式会社 田安商店

Baroque

サヨナラー寛ちゃん!!

山本文栄

研究会の発足及び、その発展に主動的な努力をせられた、横瀬君が今度東京に移られることになった。元々このことは横瀬君には前から定まつた道ではあるが、共に研究会の仕事をした友人としては、思い出も深く、初秋の草にすだく虫の音と共にわびしい。

昭和31年2月の或る夜、横瀬君が誕生祝をするとのことで、真珠会館のグリル大安で気の利いた、オードブルとサンドイッチを作り、態々都から持参の洋酒に意気な姿で、シエカーを振つて、友人数名を招いたことが、吾々グループの誕生会そもそもの発端であつた。その後めいめいの誕生月にはグループの集りが重ねられ、その時に業界のあり方等について話し合つたものであるが、その集りで、今の研究会で討論する様なことが話題になつていたのである。

こうした誕生会時代が約1年続く内に伊勢に真珠研究会を作ろうということに、このグループの意見が、まとまつたのである。

然しさて研究会を作るとなるとこれは仲々大変なことであつて、資金、運営と問題も複雑であつて、その為の会合が幾月も続いた。その中であつて、何時も積極的に、推進力となつたのは横瀬君であつた。

こうして生まれた研究会の、生みの苦勞と生まれ出たものを伸ばす努力が続けられたグループの中で、特に積極的に働いた横瀬君が時々言つた言葉に「研究会のことばかりやつて、会社首になるよ」と言つたことがあるが、それ程熱心であつた。急速に研究会の機構を作り上げる為、真珠会館のガレージの事務室に毎日の勤めが続いた。

とに角研究会が認められ、やれやれと言う頃真珠50年祭が行なわれ、振興会主催ということで、研究会がこれに動員され、伊勢に於ける行事の内、アトラクション関係の計画実施を研究会に依頼されたが、その当時の新聞社との交渉、NHKなどを二人で歩きまわつた思い出もまだ新しいものであり、今更なつかしいものである。

こうしたことも基礎になつて今日の研究会が出きたのであるが、その間の横

昔の努力が今日を築いたともいえるのである。

その他彼が吾々のグループに残したものの内でも「割勘システム」は大変良
ことであり、これも続けて行きたいことである。

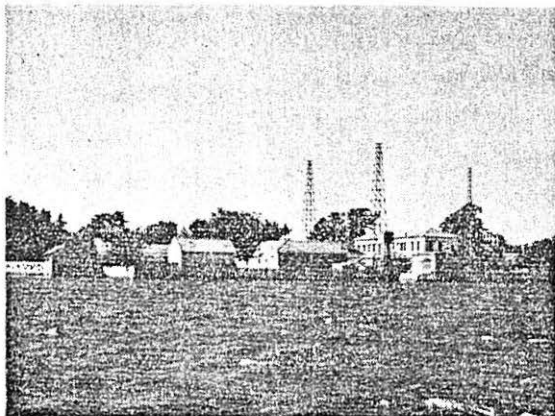
この度、伊勢を去り東京に移つて横瀬コンチエルの後継者としての道を歩
てあるう彼が、勝負に於て電気掃除器をせしめる程の営業手腕、良識ある計画
と実行力に天性の社交性が加わり、伸びて行かれることを期待すると共に、今
も伊勢に来られた時には「銀座のお姐ちゃん」の話なども聞かしていただい
り、熱心であつた研究会の指導に従来通りの協力を御願ひする次第である。

(本会 運営委員)

(研究(所)め(ぐ)り) (IV)

—— 水産試験場の巻 ——

3本の塔は漁業用陸上無線局のアンテナ、ハワイ、ニューゼーランド、印
度洋との交信もできる。右端の塔と中央の塔の間の建物が本館、その手前
が水族室、本館の左が研究室、続いて製氷工場、製造工場が見える。



水産試験場 全景

〔沿革〕

三重県水産試験場は明治32年5月に三重県庁内(津市)に創設され、同年10
月に浜島町に移転、その後昭和7年12月に現在地に再転した。創設されてから
本年は丁度60年目に当る。この間昭和19年3月から21年2月まで本場を旧海軍

に接收され、尾鷲に一時移つたり、南海大地震や台風13号等の被害をうけ建物はいさゝか老朽の域に達しつつあるが、それでも施設の規模、大きさに於ては北海道水試と並んで各府県中随一の偉容を誇つている。

〔施設〕

本場 志摩郡浜島町大字浜島

(本場長 野本一郎氏)

総坪数 3,092坪 総建坪 850坪

1. 主なる建物 本館、研究室、講堂、標本室、水族室、製造工場、真珠作業室
陸上無線局、各種倉庫
2. その他の施設

試験漁場 約30,000坪 (浜島 弁天浦)

所 属 船

遠洋漁業指導練習船 大勢丸

調査船 あさま丸 33吨52 120馬力

浦 風 4.2吨 17馬力

みはま丸

潜水船 浜 風 2.2吨 7馬力

作業船 松 風 2.6吨 8馬力

〔業務の概要〕

漁 撈 部

1. 遠洋かつおまぐろ漁業の指導
2. 沿岸漁業の指導

養 殖 部

1. 真珠及びカキの養殖指導
2. 外海における根付資源の維持増殖について調査、研究及び指導
3. ワカメ、アサクサノリ等の種苗の生産と供給
4. 各種水族の生態研究
5. 内湾養殖漁場の環境調査

製 造 部

水産物の製造加工の研究及び指導

調 査 資 料 部

1. 海況、漁況の調査
2. 水産に関する資料の調査及び収集
3. イワシの資源調査

水産伝習所

船舶乗組職員の養成、指導

〔分 場〕

本場の外に次のように分場がある。

1. 伊勢湾分場 鈴鹿市白子町
(分場長 宮村光武氏)
 1. 伊勢湾における漁況、海況の調査
 2. 海苔養殖の指導
 3. 工場廃水の調査
 4. 伊勢湾沿岸の貝類増殖指導
 5. 内水面における漁業及び増殖指導
2. 尾鷲分場 尾鷲市南浦
(分場長 高芝一男氏)
 1. 定置漁業の指導及び調査
 2. 紀州地方沿岸における漁業及び増殖の指導

〔真珠関係の試験養殖〕

1. 真珠漁場における懸濁物質の研究

32年度から内海区水産研究所の指導の下に真珠研究所との共同研究として、県下の主要漁場の懸濁質について調査研究を進めている。

これは従来アコヤガイの餌として大型の浮游生物が主として研究の対象となっていたが、更に微細な水中の懸濁物が貝の餌として重要な存在であり、その質と量を漁場別及び四季の時期別に調査して、真珠漁場の類型区分を行おうとするものである。最近の報告としては研究報告 No. 6(真珠漁場総合調査報告1)がある。

担当 本村三郎、村主昭也、関政夫、柴原規計、福島菊夫

2. 真珠漁場における試験養殖と漁場の関係について

真珠漁場の代表地点約40点に同一条件で核入れした試験貝を分散、配布して同一条件で養殖し、その浜あげ玉について解析し、漁場の環境条件との関連を知ろうとするものである。研究会報 Vol.3 No.10に一部発表

担当 木村三郎、山口昇、柴原規計

3. 真珠養殖漁場の老朽漁場改良について

近年湾奥部の漁場に頻発するアコヤガイの異常大量斃死の現象は底質に起因する異常潮によるもので、これはその原因となる底質を改良することにより防

止できるものと考えられる。よつて異常潮の発生場所と見られる水域の底泥をしゆんせつし、その前後に底質調査を行い、しゆんせつ工事の効果を判定し、漁場改良対策の資料を得ようとするものである。

担当 木村三郎、山口昇、柴原規計、前川徳昭（志摩保健所）

4. 真珠漁場の海洋観測

英虞湾、五ヶ所湾の海洋観測を実施し、各漁場の水温、塩素量、酸素量、透明度プランクトンの状況を調査し、赤潮、冷潮、アコヤガイの大量斃死の原因となる異常潮等の異常海況の消長を把握する。最近の報告として英虞湾海洋観測報告（昭和27年4月～33年3月）がある。

担当 養殖部全員

5. 真珠貝採苗観測並びに予報

34年度において実施する県営真珠貝採苗試験の一環として、各海域における海況を調査し、アコヤガイ幼生の出現状況を観察して採苗器投入の適期を予報するに足る基礎資料を得ようとする。

担当 木村三郎、関政夫、福島菊夫、宮本芳郎、浜口秀司

6. 真珠貝採苗器の種類と構造について

アコヤガイ採苗に当つて従来杉葉が一般的に用いられてきたが、採取期までの脱落、食害、成長不良等必ずしも採苗器として満足できるものでない。よつてこれらの欠点を補い安価に多量を入手出来る材料を最も合理的な構造の採苗器を考案しようとするものである。

担当 山口昇、柴原規計

（資料は木村三郎氏による）

10 月 予 定

集荷始まる

10 月 5 日



第 1 回 評 価 会

20. 21 日

（中珠（6ミリ）以下締切 13 日）
（大珠（7ミリ）以上締切 18 日）

初 市（第 1 回入札会）

26. 27 日

夏季斃死の予防について

特に英虞湾について

〔昭和34年度注意予報・第1報〕

8月1日

真珠研究会・海洋観測分科会
三重県水産試験場
国立真珠研究所

水 温

(A) 浜島水温 (浜島水試前 0m)

昭和22年以降の累年変化からみると、本年7月下旬の水温は 28.4°C で最高を示しており、昭和30年31年の大量斃死の年より 0.5°C 高温、平年(13年間平均)より 1.1°C の高温である。

(B) 多徳島水温 (真珠研究所臨海実験室前)

① 2 m 層

本年は水温の上昇が早く、7月8日以来27日迄は多少の昇降はあつたが 27°C 級を示していたが28日以降は急昇して 29°C 級となり一応警戒水温の範囲内に入つた。

これを前年に比べると、7月20日以降においては最高 3.1°C 、最低 1.3°C の高温であり、大量斃死のあつた31年と略々全程度である。

② 5 m 層

5m層は7月中旬以来 25°C 級を示し28日以降 26°C に昇温したが、今のところ最も安全層と見る事が出来る。

(C) 英虞湾水温 (7月27日観測)

① 2 m 層

浜島から湾中央部にかけては 27°C 前後を示しているが、船越浦、立神浦、布施田浦、和具浦、神明浦、鶴方浦等は航路筋の沖合部を除いては大体 28°C 級に近く、茲々2~3日の晴天が続けば 28°C 級に入ると思われるので一応警戒水温の範囲内と考えてよい。

② 5 m 層

全湾を通じて 25°C を示しておるが月末にはおそらく 26°C 乃至 27°C 級に近づ

く事と思われるが、現在のところ最も安全層とみなす事が出来る。

一般的にみて既に2m層は警戒範囲に入り、5m層は安全層とみてよい。一般に斃死との関係は31年度の例からみると28°C級300時間29°C級200時間程で大きな影響を及しているが特に水温が急激に上昇した後に斃死が起る様であり28日以後の水温上昇速度は非常に急であるから注意を要する。なおこの様な場合には漸次下層水の昇温も早くなるから5m層と雖も常に観測を実施しその変動に注意する様に希望する。

比 重

(A) 浜島比重

本年7月下旬における比重は25.00級を示し昭和22年以來の記録で比較すると従来にない高比重である。

(B) 多徳島比重

本年7月下旬に入つてからの2m～5m層の比重は前年に比べてかなり高く2m級23.50以上5m級25.00級を示している。これが例年に比べて浜島記録程特異のものであるかどうかは累年資料がないので判定しかねるが、降水量が少いことと晴天続きのため28日以降においても全様の状態を示している。

このことは最近の海水の透明度が湾口から湾奥にかけて非常に大きい現象と関連がある様に思えるし、この現象が真珠貝の健康状態にどの様に影響するかは実証試験の結果がないので判定し兼ねるが今後の真珠貝の健康状態については充分の注意を払われたい。

(賢島周辺における真珠貝の状態は未だ貝柱の衰弱は認められないが挿核部の皮フの弱さが目立つて来ている。)

降 水 量

浜島記録で累年との比較をみると、本年7月下旬の降水量は1.3ミリで過去13ヶ年間の記録では寡雨第2位である。

昭和30年、31年の大量斃死の年も非常に降水量が少なかつたが、英虞湾において夏季には毎旬20ミリ程度の降雨量は環境調節の面から必要最低の限界の様と思われる。従つて今後も引続いて晴天寡雨の状況が続く様な場合には斃死について充分の注意が必要であらう。

総 括

昭和30年、31年の真珠貝の夏季大量斃死は環境変動に対する予防手段が充分講ぜられなかつた事が大きな原因である。扱て本年現在の気象海況は寡雨、

高水温の点で30年31年以上であるし、比重は遙かに高い。この降水量が非常に少い事は水温が異常に上昇する大きな原因となる外に比重や飼料条件にかなりの影響を及ぼす様に思われるし、このことは真珠貝の健康状態の面からみると若干の心配の点のある事が考えられる。従つて今後の気象とそれに大きく左右される海況の変動については充分の関心が必要であるが、全時に現況からみて次の諸点については特に作業上の注意を払われたい。

1. 海事作業上の注意

- ① 貝掃除は出来るだけ短時間に而も簡単に済ませる事。なお出来ることなら籠の交換のみに止めておきたい。即ち貝掃除の際の空中露出や、足糸切断等による貝の衰弱を防いで極力貝の健康維持に努める事が必要である。
- ② 現在のところ既に2m層は28°C級となり警戒水温の範囲に入ったから安全層である5m層前後の水深を利用する様にしたい。
- ③ 湾奥部の浅い漁場では海底泥の悪影響を考慮しなければならないから深吊をした場合でも常に深吊り貝の状況に注意を払わなければならない。但し7月27日の観測結果では湾奥部も酸素量は充分あり水質の悪化の状況は認められない。

2. 施術作業上の注意

- ① 施術直後の貝は特に死亡し易いから挿入する核のサイズを小さくすること、又母貝は若年貝を使用する事が望ましい。
- ② 施術直後の貝は水温27°Cを超すと死亡率が多くなるから、作業場、養生場所の水温が高いところでは深層水の汲み上げや、養生水深も適温層で養生する等の注意が必要である。

斃死現象がみられたときは、研究会、水産試験場、真珠研究所の何れにでも早く御連絡下さい



多德島(英嶺)地先觀測

(24. 7. 1~30)

真珠研究所

日	時刻	天候	降水量	気温	水 温					水 温 経 日 変 化									
					0 m	2 m	5 m	0 m	2 m	5 m	日	23°	24°	25°	26°	27°	28°	29°	30°
1	12-00	☉	0	25.1	26.0	24.8	23.6	11.52	23.48	25.32	1								
2	"	☉	0	27.0	25.6	25.4	24.6	17.69	22.03	24.68	2								
3	"	☉	0	30.2	28.4	25.7	25.0	13.12	18.57	24.94	3								
4	"	☉	0	26.9	26.7	25.4	25.0	16.05	23.01	24.77	4								
5	"	☉	0	—	28.3	25.1	24.7	16.99	22.35	23.09	5								
6	"	☉	0	29.0	29.1	25.7	25.5	17.29	24.01	25.07	6								
7	"	☉	0	30.9	—	25.1	—	—	—	—	7								
8	"	☉	0	27.6	28.6	25.4	—	21.21	21.35	—	8								
9	"	☉	5.5	28.9	23.3	27.7	25.7	20.93	22.12	25.71	9								
10	"	☉	0	27.6	28.5	27.7	—	20.95	22.12	—	10								
11	"	☉	0	26.2	27.4	27.6	25.4	21.70	22.68	24.98	11								
13	"	☉	9.2	27.8	28.4	27.6	24.7	21.27	21.87	25.03	13								
14	"	●	38.9	24.8	26.8	25.5	25.4	21.83	23.15	23.17	14								
15	"	☉	51.5	24.8	26.3	25.0	25.9	22.18	22.96	23.97	15								
16	"	☉	0	26.9	28.1	25.6	25.3	13.55	20.33	24.64	16								
17	"	☉	0	27.5	28.5	27.3	25.7	11.65	16.44	23.08	17								
18	"	☉	0.7	27.1	27.7	25.5	24.8	18.01	20.72	25.11	18								
20	"	☉	4.6	28.5	27.8	27.2	25.3	19.15	20.62	24.79	20								
21	"	○	0	29.3	28.4	27.4	25.1	20.54	22.98	25.13	21								
22	"	○	0	29.4	28.0	27.7	25.3	21.53	21.49	23.74	22								
23	"	☉	0	28.0	28.7	27.3	25.3	21.49	22.73	23.74	23								
24	"	☉	0	29.4	29.1	27.1	25.6	21.67	23.67	24.18	24								
25	"	☉	0	30.5	29.1	27.7	25.9	21.77	23.46	24.90	25								
26	"	☉	0	27.0	28.6	27.5	27.0	22.19	24.63	24.66	26								
27	"	☉	0	27.8	28.6	26.2	25.5	22.37	23.76	25.51	27								
28	13-50	☉	0	29.5	29.3	28.2	25.4	22.20	23.52	24.32	28								
29	16-35	☉	0	28.0	29.4	25.6	25.8	23.04	23.87	25.11	29								
30	12-00	☉	0	29.7	29.6	28.5	25.5	22.97	23.07	24.59	30								

英虞湾水温観測 (34・7・27)

真珠研究所

地点名称	St No.	測定時間	天候	雲量	気温	水深	風	0m	1m	2m	5m	10m	B	温度計No.
迫子フジ真珠	1	9:50	⊙	8	28.5°C	10m	NE-1	27.2		26.6	25.1	24.3		21770
御崎出し浜島沖	2	10:07	〃	〃	〃	10<	〃	27.2		27.0	25.2	24.3		〃
ベ ン 天	3	10:20	〃	〃	〃	10<	〃	27.4	27.3	27.2	25.1	24.5		〃
矢 取 東	4	10:50	〃	〃	29.4	8.5	E-2	27.1	27.1	26.6	25.4		24.3 (8.5)	〃
宝 路 ケ 浦	5	11:07	〃	〃	〃	5.5	〃	27.0	26.8	26.6			25.4 (5.5)	〃
矢取御座中間	6	11:18	〃	〃	〃	10<	〃	27.0	26.9	26.8	25.2	23.6		〃
イカ浦沖イヤイ瀬	7	11:30	〃	〃	29.6	10<	E-1	27.5	26.9	26.4	25.5	23.6		〃
イ カ 浦	8	11:42	〃	〃	〃	10<	〃	27.2	27.1	26.4	25.1	23.6		〃
越 賀 浦 沖	9	11:57	〃	〃	〃	10<	〃	27.5	27.0	26.6	25.3	23.6		〃
越 賀 浦	10	12:08	〃	〃	30.2	10<	〃	27.8	27.5	27.2	25.1	23.2		〃
ザガ島南西水道	11	12:25	〃	〃	〃	10<	〃	27.9	27.7	26.4	25.1	23.4		〃
ザガ間崎中間	12	12:37	〃	〃	〃	〃	〃	27.5	27.4	27.1	25.2	23.2		〃
和 具 浦	13	12:53	⊙	7	30.3	〃	E-2	28.1	27.9	27.6	25.2	23.4		〃
和具浦兎山中間	14	13:05	〃	〃	〃	〃	〃	27.9	27.8	27.2	24.8	23.2		〃
布施田浦沖	15	13:18	〃	〃	〃	〃	〃	28.0	27.8	26.7	24.8	23.2		〃
布施田浦	16	13:30	⊙	6	29.5	9	E-1	29.3	29.0	27.8	24.4		23.3 (9)	〃
長 田 浦	17	13:48	〃	〃	〃	4	〃	29.8	29.2	28.0			25.1 (4)	〃
釜 大 浦 前 沖	18	14:03	〃	〃	〃	10<	〃	29.1	28.4	26.6	24.4	23.2		〃
一 野 浦 (立神)	19	14:21	〃	〃	30.1	〃	〃	29.3	29.1	27.1	24.4		24.3 (4)	〃
一 野 浦 (寺三真珠)	20	14:32	〃	〃	〃	4	〃	29.5	29.1	27.1			25.3 (4)	〃
野 浦 (寺三真珠)	21	15:07	〃	〃	〃	6.5	〃	29.6	29.0	27.3	24.5		24.3 (6)	〃
兎山天童中間	22	15:40	〃	〃	29.3	9	〃	29.0	28.0	26.9	25.3		23.3 (9)	〃
間崎西北北崎代	201	9:30	⊙	7	23.9	20<	〃	27.9	27.7	27.2	25.0	23.1	21.9 (20)	22216
サンコウ島東	202	10:00	〃	〃	28.6	12.5	〃	28.5	28.5	27.6	25.1	22.8	22.4(12.5)	〃
鶴方浦(ワタナベ)	203	10:15	〃	〃	29.8	7.3	〃	28.8	28.9	27.8	26.5		23.6 (7.3)	〃
カシコ中谷浦(中北)	204	10:35	〃	7	30.2	9.9	〃	28.8	28.6	27.6	24.3		22.9 (9.9)	〃
奥神明ツモト崎	205	11:05	〃	〃	29.6	8.0	〃	29.5	29.4	27.9	24.5		23.3 (7.5)	〃
枯島北(神明)	206	11:20	⊙	6	29.9	20<	〃	28.7	28.4	27.2	24.9	22.8	22.3 (20)	〃
土井ヶ原南東天童沖	207	11:40	〃	〃	28.8	10.8	〃	28.5	28.5	26.9	24.6	22.8	22.8(10.8)	〃
半七浦最奥	208	12:30	〃	7	30.4	4.8	〃	29.3	29.2	28.0			25.7 (4.5)	〃
宮ヶ崎(立神)加藤横	209	12:40	⊙	6	29.2	7.1	〃	29.3	29.0	27.5	25.0		25.0 (7.0)	〃
立神大ピラン南	210	13:00	〃	〃	30.4	8.0	〃	29.5	29.2	27.4	24.8		24.5 (8.0)	〃
みつわ工場前	211	13:15	〃	〃	〃	6.9	〃	29.4	29.4	27.5			24.3 (6.5)	〃
多 徳 島	212	15:25	〃	6	30.2	10.3	ES-1	29.5	28.6	28.3	25.1	23.6		〃

水 温 累 年 変 化

月旬別 年 別		7 月			8 月			7月平均
		上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	
昭和	22	24.5	25.2	28.0	27.6	28.5	28.5	25.9
	23	25.4	27.1	27.3	28.4	27.9	27.5	26.6
	24	22.7	26.1	26.7	27.9	28.6	28.2	25.2
	25	25.4	26.8	27.8	28.9	28.9	28.5	26.6
	26	22.4	23.5	27.5	27.9	28.5	28.7	24.4
	27	24.0	24.4	27.3	27.9	27.7	29.2	25.6
	28	24.1	24.1	26.9	27.1	27.9	27.1	25.0
	29	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠
	○ 30	25.2	29.7	27.9	28.5	28.6	27.8	26.6
	◎ 31	23.2	26.3	27.9	28.8	28.5	25.2	25.9
	32	24.0	25.0	26.2	28.2	27.3	27.7	25.1
	33	25.2	25.6	25.5	27.6	27.3	27.1	25.4
	34	26.3	26.4	28.4				

(27日まで)

(註) 1. 水温は浜島水試前 Om. (午前10時)

比 重 累 年 変 化

月旬別 年 別		7 月			8 月			7月平均
		上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	
昭和	22	24.32	24.35	23.72	24.48	24.89	24.92	24.13
	23	23.43	23.17	23.54	23.58	23.76	23.03	23.38
	24	21.48	21.88	23.43	23.25	24.22	24.61	22.23
	25	23.14	24.33	24.87	24.25	24.41	23.70	24.87
	26	22.49	19.11	20.85	22.25	23.63	23.85	20.81
	27	19.07	18.33	19.70	19.12	22.65	23.83	19.06
	28	19.70	21.02	17.68	21.72	22.11	20.50	19.53
	29	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠
	○ 30	22.36	23.86	23.56	23.48	23.73	23.68	23.60
	◎ 31	21.77	22.85	23.16	23.40	23.55	24.54	22.62
	32	22.40	21.18	19.52	20.81	19.88	21.67	20.94
	33	23.66	24.25	22.83	23.96	24.11	22.30	23.56
	34	23.20	23.13	25.05				

(27日まで)

(註) 1. 比重は浜島水試前 Om. (午前10時)

降水量累年変化

年 別	7 月			8 月			7月合計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
	ミリ	ミリ	ミリ	ミリ	ミリ	ミリ	
昭和 22	5.4	83.9	13.6	37.3	10.0	9.5	102.9
23	15.3	91.0	0.8	—	9.1	103.6	107.1
24	54.3	—	48.8	—	26.5	48.7	103.1
25	14.1	49.4	96.8	26.2	73.9	15.8	160.3
26	137.2	137.1	0.2	2.1	34.4	67.2	274.5
27	195.2	129.8	28.2	90.1	48.1	46.8	353.1
28	33.5	211.7	2.3	23.3	74.1	190.3	247.5
29	100.8	93.3	16.9	25.0	82.0	92.3	211.0
○ 30	15.7	17.7	148.1	11.8	4.8	200.3	181.5
◎ 31	69.4	30.1	12.2	9.4	15.9	94.2	111.7
32	65.5	88.5	179.3	42.7	245.2	48.8	333.3
33	20.8	78.6	95.5	22.3	27.6	203.3	194.9
34	6.3	120.9	1.3				128.5

(27日まで)

- (註) 1. 降水量は浜島水試構内
 2. ○印 夏季斃死の顕著な年
 ◎印 〃 の最も多かつた年
 3. 夏季斃死の時期

新着図書紹介

○ 真珠の研究

北大教授理学博士 小林 新 二 郎 共 著
 三重県立大学講師 渡 部 哲 光
 (技報堂発行 600円)

真珠に関する単行本は極めて少く数年前迄は小串次郎の「真珠の研究」と西川藤吉遺稿の「真珠」位しかなく、神田の古本屋で年に1、2冊、而も2〜3,000円もする貴重さであつた。

こゝ2、3年の間に真珠養殖技術も大いに研究改良され、その成果発表も

少くないが、殆んど誌上にばらばらであるために一般の人々の参考になり難い。

編集者はせめても……と それらを出きる丈本誌に紹介したが、現在までは真珠に関するまとまつた本がなかつたのであるが、今回、上記の本が発行されたのでここに紹介する次第である。

著者の一人渡部氏は研究会にも関係のある三重大大学の先生で、現在アメリカにおられるが、真珠や貝殻の鉱物学的な研究では我国ではトップクラスの方である。

又、小林新二郎博士は東北大学御出身で満州の帝国大学の教授をつとめられ戦後は日本で始めての有能な研究業績をあげられた富士真珠研究部の部長として、渡部、結城了伍氏と共に研究され、発表された「真珠の研究」という誌は非常な有益なもので当時学生だつた子は未知の小林博士に懇願して惠贈頂いた思い出もある。

現在でも尚研究するに当り、まず、この報告集が一見引用されていたりこの誌の入手方法がないかと会員から希望のある事等からも、この研究の価値がよく判るであろう。

本書は大きく二つの部門に分れ、養殖及び生物学的な面と、生鉱物学的な面とがあり、前記の報告は全て引用されている点、更に其の後の研究論文もことごとく整理されている点で読まねばならない書であり、且、必ず得る所があると思われる。

更にもう一つ付け加えておく事は現在北大にて御研究であるから、既に真珠の方は関係なかるう…との憶測を破つて、其の後もいろいろ資料をよせて調べておられる…との話をきいて早速本誌を送つた所、はしがきに「その後多くの研究が発表され……」と記された様に御精読になり、補遺として、引用されている点誠に驚ろくと同時に、会員諸氏と共に感謝する次第である。



さる研究会の折、本書を見せた所、会員から是非幹旋して欲しいと希望がありまとめて購入する事にしたので希望者は代金をそえて申込んで下さい。

会 報

1. 8月研究発表会

出張研究会のため永らく休んでいた伊勢の研究会は、盆休みの17日（月）に開催された。

運営委員としては出きる丈有意義な又多数の人々の参加出来る研究会をもちたいと考え、特に今回は盆休み、九州との初技術交換、業界問題に明るい山勝氏を始めて招く等1月前から準備したのであつた。

所がいざ蓋をあけてみると我々の心配はどこえやら、さしも堂々たる真珠会館3階の定席も一杯になり補助椅子を動員する有様で140名を越える盛会であり、却つて食事の準備にテンテコ舞い汗だくの奮闘であつた。

山勝氏の業界問題は長講2時間余に亘り生産から輸出、アメリカの状況迄詳しい数字を取り入れて話され、めつたに聞けぬ御話丈に全国真珠の幹部、職員は勿論、東京の振興会や、県庁、大学、研究所、試験場、組合等多くの人々の参加がみられた。

九州の「後送り」についてはかねて誌上でおなじみの山口氏がこれ又多くのデータを持つて2時間に亘り説明され、会員は活潑な質問をし、非常に有意義であつたと思われる。

大須賀、田辺氏は貴重な実験、体験による初めての発表であり、予定の時刻迄一杯を要したのでとうとう高山所長の時期的に有益な話は次回にお願いする事になり、大盛会の内に終つたのである。

尚、閉会后、山勝氏を囲んで研究会役員による懇談会を持ちいろいろ詳しい御話を伺つた。

議 題

1. 最近の真珠業界の動向と今後の対策

真珠市価安定対策委員長 山本 勝氏

2. 「後付け法」による挿核施術について

国立真珠研究所大村支所技官 山口 一登氏

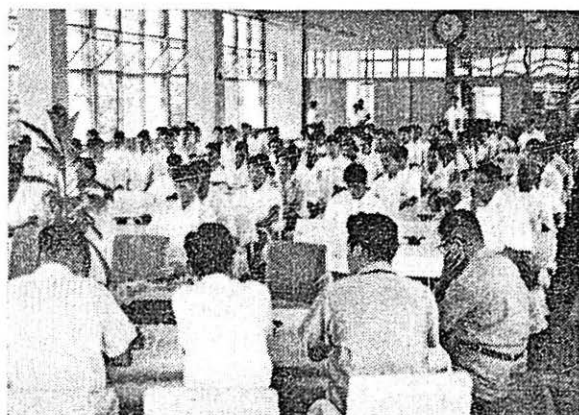
3. 1ヶ入れの部位と先端器の使用法

布施田地区 田辺 時生氏

4. 卵抜きの状態による入核直後の斃死率について

共栄水産株式会社 大須賀 正二氏

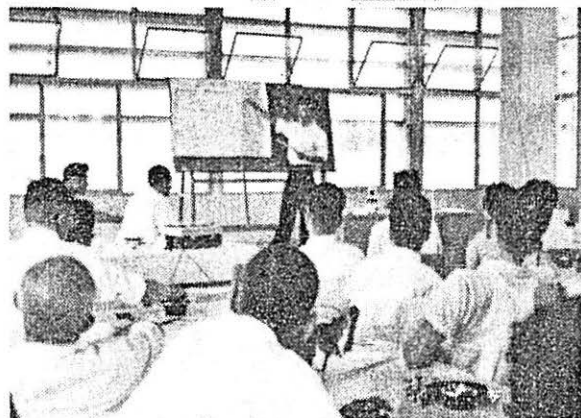
研究会スナツプ



三階は満員の
盛況であつた



山口技官の
"後送り"
について



大須賀氏の
斃死に関する
研究発表

(Canon VT 1.2 白井)

..o○o...o○o...o○o..
雑 報
 ..o○o...o○o...o○o..

1. 交換資料御礼

国立真珠研究所大村支所	:	「しんじゆ」No. 40、41、42、43
真珠新聞社	:	真珠新聞
水産経済新聞社	:	日刊水産経済新聞
輸出組合	:	輸出実績 (2月～6月)
熊本県水産試験場	:	事業報告書 (25～27年度)

2. 資料、器具頒布

水 温 計 (Y10)	3 8 0 円
比 重 計 (A)	2 1 0 円
〃 (B)	3 2 0 円
〃 (C)	2 1 0 円
会 報 綴 込 表 紙	5 0 円
真 珠 用 語 辞 典	1 2 0 円

会報バック・ナンバー在庫あり

比重測定用シリンダーは只今ありません

.....
編 集 後 記



8月研究会久しぶりに大盛況。

本文に載せた有益な話が生できかれ、質問出きる特典があるのだから旅費を出しても出席する価値はある……とある業者の声。

遠方の方々の為に全て録音、原稿を頂いて本誌に載せているのですが、なるべく出席下さらん事を……。

愈々浜揚時期が迫り、いろいろ本年の成績や値段をきゝますが、あまり感心しない有様です。

山勝氏の話にある如く、出きる丈長く海につけて、大きく又良質品にしてからで充分であり、組合の集荷開始も10月に入ってからになりましたのでつまらぬ損はしない事です。

台風シーズンが近づきました。

漁場の皆様一層の注意と努力を希望しております。 (S)

残暑お見舞申上げます

昭和34年夏

真珠研究会伊勢部会

海洋調査分科会

基礎研究分科会

経営研究分科会

昭和34年8月30日発行

第4巻 第5号会報 (非売品)

(通巻第24号)

編集委員 白井祥平

三重県伊勢市岩淵町84番地ノ2

真珠会館内

発行所 真珠研究会伊勢部会

電話(伊勢局代表)4147番

三重県伊勢市岩淵町140

印刷所 神都印刷株式会社

電話(伊勢局)2230番